

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第1項に基づく

栄町教育委員会の点検・評価報告書

(平成28年度対象)



栄町教育委員会

平成29年11月

はじめに

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第1項の規定により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに公表しなければならないこととされています。また、第2項では点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとしてされています。

栄町教育委員会では法の趣旨に則し、課題や方向性を明らかにし、より効果的な教育行政の推進のため、学識経験者からの意見を受け報告書にまとめ、町議会に提出するとともに、それを公表し説明責任を果たすものです。

○地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

栄町教育委員会委員名簿

職 名	氏 名
教 育 長	葉 山 幸 雄
教育長職務代理者	大 久 保 雅 從
委 員	中 島 宣 行
委 員	弘 海 千 鶴
委 員	石 川 京 子

目 次

- 1 点検・評価の対象 P 1
- 2 点検・評価の方法 P 1
- 3 点検・評価の結果 P 1
- 4 点検・評価（施策評価シート）
平成28年度栄町教育方針
基本方針（1）
創意と活力のある教育活動の中で、基礎・基本の習得及び思考力・判断力・表現力の育成、並びに望ましい勤労観・職業観の育成を図るキャリア教育を充実させ、個性を活かすきめ細かな学校教育を推進します。 P 2～P 11

○学識経験者の意見 P 12
○学識経験者からの意見を受けて今後の取組みについて P 18

基本方針（2）
生涯学習とスポーツを通して、心身ともに健康で生きがいのある生活と心のかよう地域社会をつくとともに、地域の教育力を活かした子どもたちの健全育成を推進します。 P 21～P 24

○学識経験者の意見 P 25
○学識経験者からの意見を受けて今後の取組みについて P 26

基本方針（3）
地域に根ざした芸術・文化の育成と文化財の保護・伝承・活用を図り、個性豊かで潤いのある地域文化の醸成を図ります。 P 27～P 30

○学識経験者の意見 P 31
○学識経験者からの意見を受けて今後の取組みについて P 32
- 5 本町教育行政が取組む方向について P 33

1 点検・評価の対象

点検・評価の対象は、「栄町教育方針」を実現するため、平成27年度の重点的な取組みとして実施した、「教育行政の充実」「学校教育環境の整備」「特色ある学校づくりの支援」「きめ細かな学校教育の推進」「学習環境の充実」「学校給食の充実」「生涯学習環境の充実」「生涯学習資料の充実」「スポーツ振興事業の充実」「文化芸術発信拠点の充実」「歴史資料の公開・活用」「文化財保護の拡充」の12の施策について点検・評価しました。

2 点検・評価の方法

点検・評価にあたっては、教育委員会事務局で作成した「施策評価シート」により自己評価を実施しました。

評価は、施策全体の取り組み状況（達成度）について

⎧	目標を達成	★★★
	目標をほぼ達成	★★
	目標に達成していない	★
	現時点で判定できない	—

の4段階で実績・成果・課題を記述し、評価する方法で行いました。

なお、客観性を一層高めるため、教育に関し学識経験を有する方に取り組み状況を説明し、基本方針ごとの自己評価に対する学識経験者からの意見をいただきました。

ご意見をいただいた方々のお名前は、次のとおりです。

(敬称略)

氏名 小野 明 (団体役員)

氏名 小島 洋子 (元学校長)

3 点検・評価の結果

施策評価シートにより、点検評価を実施しています。

12施策の結果は次のとおり

《目標に対する達成状況》

目標を達成	★★★	・・・	8施策
目標をほぼ達成	★★	・・・	4施策
目標に達成していない	★	・・・	0施策
現時点で判定できない	—	・・・	0施策

4 点検・評価（施策評価シート）

基本方針（1）

創意と活力のある教育活動の中で、基礎・基本の習得及び思考力・判断力・表現力の育成、並びに望ましい勤労観・職業観の育成を図るキャリア教育を充実させ、個性を生かすきめ細かな学校教育を推進します。

【施策名】

- ・ 教育行政の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 3
- ・ 学校教育環境の整備・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 4
- ・ 特色ある学校づくりの支援・・・・・・・・・・・・・・・・ P 5～P 6
- ・ きめ細かな学校教育の推進・・・・・・・・・・・・・・・・ P 7～P 8
- ・ 学習環境の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 9～P 10
- ・ 学校給食の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 11

○学識経験者の意見・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 12

○学識経験者からの意見を受けて今後の取組みについて・・・ P 18



施策評価シート

1. 施策の情報整理

施策名		教育行政の充実					
現状と課題		<p>教育行政の大綱や教育の条件整備などに関して町長と教育委員会が協議・調整を行う「総合教育会議」が設置されており、町長が招集し、大綱の策定、教育条件の整備等重点に講ずべき施策、緊急の講ずべき措置について町長と教育委員会が協議・調整を行うこととしている。町長と教育委員会が相互の連携を図りつつ、より一層民意を反映した教育行政を推進するため、教育の政治的中立性、継続性、安定性を確保しつつ、地方教育行政における責任体制の明確化、迅速な危機管理体制の構築を図りながら、将来社会自立する子どもたちの「生きる力」をはぐくむことを重視し、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」等のバランスのとれた教育を推進していきます。</p> <p>また、教育委員会内の情報の共有化、意識の共有化等風通しの良さをより一層徹底して、教育環境の改善につなげていきます。</p>					
施策の情報整理	目指す成果	<p>教育に関する国等の情報が的確に収集され、迅速に教育委員会に諮り、委員会の意思決定を行うとともに、関係課及び各教育機関が連携し円滑な教育行政が行われている。また、栄町教育振興基本計画にもあるように、家庭・学校・地域を連携し、それぞれの役割を果たしながら、学校教育、生涯学習、スポーツ、芸術文化などの各分野に積極的に参画することで、「豊かな心と生きがいを育み歴史と文化が息づくまち」をつくり「夢に向かって挑戦する栄っ子」を育てることができる社会の実現を目指していく。</p>					
	成果指標及び実績	指標	現状値	平成27年度	平成28年度	平成30年度 (教育振興基本計画目標値)	目標数値の説明
		教育委員会所管の施策 目標の達成度	42% (H25)	100%	100%	100%	
	施策全体の達成度 (★★★★)	★★★★	目標を達成(100%) ★★★★★ 目標をほぼ達成(80%以上) ★★★★★ 目標を達成していない ★★★★★ 現時点では判定できない —	施策の事業費 (上段:最終予算) (下段:決算額)		1,928 千円	
	達成度の理由	<p>教育委員会所管の施策について、点検評価を実施した際の達成度の割合。 教育委員会所管の施策11施策(教育行政の充実を除く)のうち、「目標を達成が7施策」、「目標をほぼ達成が4施策」であった。 目標を達成が7施策、目標をほぼ達成が4施策であることから、教育委員会所管の施策全体の達成度は「目標をほぼ達成」とした。 よって、全12施策中、「目標を達成が8施策」、「目標達成をほぼ達成が4施策」となる。</p> <p>総合的には、各施策の進捗状況や教育委員会会議、総合教育会議、教育委員による学校訪問等を実施し、円滑な教育行政を行なったことから、「目標を達成」と判断した。</p>					
	設定成果指標以外に現れた成果の説明						
	外部環境の変化や住民ニーズの変化など、今後、課題と対応が予測されるもの	<p>町長と教育委員会が相互の連携を図りつつ、より一層民意を反映した教育行政を推進するため、教育の政治的中立性、継続性、安定性を確保しつつ、地方教育行政における責任体制の明確化、迅速な危機管理体制の構築を図りながら、将来社会自立する子どもたちのバランスのとれた教育を推進していく。</p>					
住民との協働や他課の事業との連携	<p>教育基本法第17条第2項に規定される「地方公共団体が策定する教育の振興のための施策に関する基本的な計画」として位置付けた、「栄町教育振興基本計画」(平成27年度～平成30年度)に基づき各種施策を推進していく。</p>						

2. 事務事業の取り組み

(単位:千円)

事務事業名	平成28年度の取組実績	事業の評価(取組の課題及び今後の課題への対応)	事業費
① 教育総務運営事業	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会会議(定例会12回)を開催し、重要事項や基本方針の決定を行い円滑な教育行政が行えた。 ・総合教育会議は、充実した意義のある協議がされた。また、町長と教育委員会の情報共有を図った。 ・教育委員が学校を訪問し学校現場の課題や問題を把握し教育委員会としての指導や支援の在り方を検討する機会とした。 ・教育委員会の施策に対して点検評価を行い目標達成度の検証を行った。 ・教育委員会規則・訓令の制定、改廃 1件 ・予算等議決議案を町長に申し出ること 7件 ・任命・委嘱 12件 ・その他 18件 委員研修(千教連・印教連開催等) 3回 	<p>【取組への課題】 町長と教育委員会が相互の連携を図りつつ、より一層民意を反映した教育行政を推進するため、教育の政治的中立性、継続性、安定性を確保しながら、地方教育行政における責任体制の明確化、迅速な危機管理体制の構築を図りながら、将来社会自立する子どもたちの「生きる力」をはぐくむことを重視し、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」等のバランスのとれた教育を推進していく事が必要。</p>	H26 決算 1,970 H27 決算 1,873
		<p>【課題を踏まえ今後の対応】 それぞれの事業の効果を検証しながら、情報の共有化、意識の共有化等をより一層徹底して、教育環境の改善につなげ、子どもたちに寄り添い、きめ細やかな教育行政が実施できるよう教育委員会会議等で常に協議・検討をしていく。</p>	H28 予算 1,928
			H28 決算 1,878
合計			H26 決算 1,970 H27 決算 1,873 H28 予算 1,928 H28 決算 1,878

施策評価シート

1. 施策の情報整理

施策名	学校教育環境の整備					
現状と課題	<p>学校施設は子どもたちの教育を行う場所であるのみならず、地域コミュニティ育成の場や災害時の避難場所としても利用されるものであり、常に安全が確保されているべき場所である。このことにより、平成27年度中に屋内運動場の天井等落下防止対策工事(安食台小、竜角寺台小、栄中)を行う予定であったが、国の補正予算により補助採択されたため、平成28年度繰越しにより、工事が完了した。また、気象変動に伴う夏場の暑さ対策のため、小学校への空調機設置についても、国の補正予算により補助採択されたため、平成28年度繰越しにより行い、工事が完了した。</p> <p>トイレの洋式化については、国の補正予算により補助採択されたため、平成29年度繰越しとなり7月に完了した。</p> <p>今後の学校施設環境整備も、多額の工事費がかかってしまうため、国の補助制度を有効に活用し整備を行わなければならない。</p>					
目指す成果	児童生徒及び教職員がより良い教育環境で学習することができ、安全で安心して学校生活が送れている。					
成果指標及び実績	指標	現状値	平成27年度	平成28年度	平成30年度 (教育振興基本計画目標値)	目標数値の説明
	教育環境の整備・充実	空調機 1校 トイレ洋式 1校 (H26)	60%	100%	空調機 4校 トイレ洋式 4校	主な環境整備事業 ・空調機 4校 ・トイレ洋式 4校
施策全体の達成度 (★★★)	★★★	目標を達成(100%) ★★★ 目標をほぼ達成(80%以上) ★★ 目標を達成していない ★ 現時点では判定できない —	施策の事業費 (上段:最終予算) (下段:決算額)		513,442 千円	
					381,211 千円	
達成度の理由	<p>・平成27年度中に、小学校4校の空調機設置を予定していたが、国の補正予算により補助採択されたことから、平成27年度内で工事が完了できなかったため、平成28年度繰越しにより行い、工事が完了した。また、同様に、屋内運動場の天井等落下防止対策工事(安食台小、竜角寺台小、栄中)も、国の補正予算により補助採択されたため、平成28年度繰越しにより行い工事が完了した。</p> <p>・トイレ洋式化の4校(安食小、布鎌小、竜角寺台小、栄中)においては、平成28年度改修予定であったが、国の補正予算での対応であったため、平成29年度繰越しにより行い、工事は平成29年7月に完了している。</p> <p>・学校管理運営事業では、各学校の維持管理を適正に行い、学校配当予算を適正に管理した。</p> <p>・総合的には、トイレ洋式化工事が次年度繰越しとなったため、28年度中には工事は完了しなかったものの、洋式化工事は行なえることとなったことから、「目標を達成」と判断した。</p>					
設定成果指標以外に現れた成果の説明						
外部環境の変化や住民ニーズの変化など、今後、課題と対応が予測されるもの	<p>学校施設は子どもたちの教育を行う場所であるのみならず、地域コミュニティ育成の場や災害時の避難場所としても利用されるものであり、常に安全が確保されているべき場所である。このことにより、グラウンドの改修・非構造部材の耐震化を含め、児童・生徒及び教職員がより良い教育環境で学習することができ、安心して学校生活が送れるよう、各学校の実情等を踏まえ学校施設整備計画を策定する。</p>					
住民との協働や他課の事業との連携						

2. 事務事業の取り組み

(単位:千円)

事務事業名	平成28年度の取組実績	事業の評価(取組の課題及び今後の課題への対応)	事業費	
① 学習環境整備事業	<p>児童生徒及び教職員がより良い学校施設で学習することができ、安心して学校生活が送れるよう各種工事・修繕を行った。</p> <p>【主な工事等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安食小グラウンド改修 5,695千円 ・安食台小天井等落下防止工事 37,422千円 ・竜角寺台小天井等落下防止工事 41,634千円 ・栄中天井等落下防止工事 91,803千円 ・小学校空調機設置工事 168,048千円 ・安食小災害復旧工事 400千円 ・布鎌小災害復旧工事 292千円 ・安食台小災害復旧工事 400千円 ・竜角寺台小災害復旧工事 299千円 ・栄中災害復旧工事 697千円 ・小中学校トイレ洋式化等工事 44,310千円 (H29繰越) 	<p>【取組への課題】</p> <p>学習環境の整備には多額の費用がかかることから、国の補助事業採択が重要になってくる。そのため、補助採択の状況により、事業進捗が左右されてしまうため、安定的な財源の確保が必要となる。</p> <p>【課題を踏まえ今後の対応】</p> <p>国では、計画的な学習環境整備をするために、施設整備計画(長寿命化)を平成32年度までに作成することとしていることから、各学校の実情を踏まえた施設整備計画を策定する。</p>	H26 決算	275,279
			H27 決算	14,251
			H28 予算	472,725
			H28 決算	344,602
② 学校管理運営事業	<p>より良い学校生活が送れるよう学校配当予算の適正な執行・管理を行い、学校の維持管理も適正に行った。</p> <p>【主な管理費等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各小中学校消防用設備保守点検委託 1,719千円 ・安食小、安食台小、栄中高木剪定委託 800千円 ・各小中学校光熱水費 16,554千円 	<p>【取組への課題】</p> <p>各学校の予算については、限られた財源を有効に活用できるようにする。</p> <p>【課題を踏まえ今後の対応】</p> <p>より良い学校生活が送れるよう学校の予算を適正に執行・管理する。また、引き続き老朽化した機器の修理等を実施する。</p>	H26 決算	38,595
			H27 決算	50,099
			H28 予算	40,717
			H28 決算	36,609
合計			H26 決算	313,874
			H27 決算	64,350
			H28 予算	513,442
			H28 決算	381,211

施策評価シート

1. 施策の情報整理

施 策 名		特色ある学校づくりの支援					
現状と課題		町の人口減少と共に少子化による児童・生徒数の減少が予測される中、子どもたちへの教育の重要性が増している。学校運営や教育活動においても学校と地域が一体となって教育を推進していく必要がある。					
施策の情報整理	目指す成果	小中学校ごとに望ましい学校教育のあり方を追求し、保護者や地域住民が参加した「特色ある学校づくり」を推進している。					
	成果指標及び実績	指標	現状値	平成27年度	平成28年度	平成30年度 (教育振興基本計画目標値)	目標数値の説明
		学校評価における保護者アンケート	93.8% (H25)	95%	95%	95%	
	施策全体の達成度 (★★★★)	★★★★	目標を達成(100%) ★★★★★ 目標をほぼ達成(80%以上) ★★★ 目標を達成していない ★ 現時点では判定できない ー	施策の事業費 (上段:最終予算) (下段:決算額)		21,431 千円 20,479 千円	
		達成度の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・安食台小学校、栄中学校共に統合後の学校運営は円滑におこなわれている。また、スクールバスについても適正且つ安全に運行されており、児童生徒の通学時の安全は確保されている。 ・学校は学校評議員を通じて、地域住民の意向を反映した開かれた学校づくりを実践している。 以上のことから、総合的に目標を達成したと判断した。				
	設定成果指標以外に現れた成果の説明	統合により学校規模が適正になったことから、それぞれの特色を生かした学校づくりが更に進んでいる。					
	外部環境の変化や住民ニーズの変化など、今後、課題と対応が予測されるもの	<ul style="list-style-type: none"> ・統合に係る児童生徒の心のケアの継続 ・各地域におけるふれあい推進員を含めたPTA組織・地域の活動力の維持 ・地域コミュニティースクールの導入について 					
住民との協働や他課の事業との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・学校支援地域本部及びふれあい推進員等による放課後子供教室等、学校と地域が一体となり、地域ぐるみで子どもを育む体制が確立している。 ・通学路の危険個所の確認を、建設課と共同して行った。 						

2. 事務事業の取り組み

(単位:千円)

事務事業名	平成28年度の取組実績	事業の評価(取組の課題及び今後の課題への対応)	事業費
① 通学安全対策事業	<ul style="list-style-type: none"> ・統合により遠距離の通学となった児童生徒が安全に通学できるよう、スクールバスの運行を継続した。 小中共に登下校時2便の運行 安食台小学校 旧北辺田小学校区:マイクロバス 旧酒直小学校区:中型バス 栄中学校 旧竜角寺台小学校区:大型バス、マイクロバス 旧酒直小学校区:中型バス ・運行はシルバー人材センターに委託 	【取組への課題】 ・スクールバスの安全運行を確保する。	H26 決算 12,983
		H27 決算 14,003	
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・スクールバスの安全運行については、教育委員会、学校、シルバー人材センターが連絡調整を密にし、TPOに応じて運行時間の変更、運行ルートの精査等を実施し、適正且つ安全な運行をおこなっていく。 特に突発的な事故等への対応や賠償等の事案について、シルバー人材センターとの間で合意を図る。 また、通学路の安全を確保するため、バス運行の視点も加味した通学路点検を実施し、危険個所について安全対策を講じていく。	H28 予算 13,711
		H28 決算 13,157	
② 特色ある学校づくり推進事業	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評議員設置業務 学校評議員を全校に配置した。 ・地域住民による学校支援推進業務 地域住民などによる教育活動の充実のための学校支援(ゲストティーチャーなど)を推進した。 ・教育振興支援事業 学校教育振興会へ補助金を交付し、活動を支援した。 ・学校安全指導業務 新1年生を迎えた1学期に各小学校で、交通安全教室を開催した。 ・学校運営の支援業務 小学校に日々雇用職員の学校用務員の配置を行った。 	【取組への課題】 ・学校安全指導業務を通じて交通安全指導を行っているが、小中学生の交通事故は発生しているため、指導を工夫していく必要がある。	H26 決算 14,700
		H27 決算 8,376	
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・学校評議員の意見に対する学校の対応について、教育委員会が状況を把握し、必要な措置を講ずることで、保護者や地域住民の意向を反映した開かれた学校運営に努めていく。 ・交通安全指導の際、事故発生場所や発生形態についてより具体的に児童生徒に伝える。	H28 予算 7,530
		H28 決算 7,241	
③ 「栄っこ宣言」推進事業	<ul style="list-style-type: none"> ・「栄っこ宣言」にある、5つの行動規範を心の糧として夢に向かってがんばり、ふるさと「栄町」を愛する心を育てていくため、小中学生全員に「栄っこ宣言」が印刷されたクリアファイルを配付し、啓発した。 	【取組への課題】 ・幼保小中連携を視野に入れた取り組みを推進していく必要がある。	H26 決算 225
		H27 決算 81	
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・「栄っこ宣言」の唱和を全校で実施することで、具体的な行動へと発展させる。	H28 予算 81
		H28 決算 81	

④	栄っ子夢・元気プロジェクト推進事業	平成28年度より生涯学習課へ事務移管	【取組への課題】	H26 決算	663
				H27 決算	679
			【課題を踏まえ今後の対応】	H28 予算	
				H28 決算	
⑤	教職員等の適正配置事業	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の服務 ・昇給内申等に関する業務・教職員人事評価に関する業務 ・教職員の昇給内申事務、産休・育休に関する業務、履歴事項に関する業務など教職員の服務に関する業務を適切に行った。 ・学級編制に関する業務 ・教職員の適正配置、適正な学級編制を実施した。 	【取組への課題】	H26 決算	113
				H27 決算	12
			【課題を踏まえ今後の対応】	H28 予算	109
				H28 決算	0
⑥	小・中学校再編事業	事業終了	【取組への課題】	H26 決算	12,983
				H27 決算	739
				H28 予算	
				H28 決算	
合計				H26 決算	41,442
				H27 決算	24,034
				H28 予算	21,431
				H28 決算	20,479

施策評価シート

1. 施策の情報整理

施策名	きめ細かな学校教育の推進							
現状と課題	<p>栄町では、「教育を進める上で、「知」「徳」「体」のバランスのとれた「生きる力」を育成している。学校・家庭と地域及び子どもたちどうしが「みんなで支え、共に伸びる教育」を学校教育の方向性として位置づけ、子どもたちが変化の激しい社会をたくましく生きていけるよう、基礎・基本の定着を図り確かな学力を習得させるとともに、地域の特性を生かした体験活動を充実し、個に応じたきめ細かな指導を推進してきた。</p> <p>自ら学ぶ意欲を身に付けた心豊かでたくましい子どもを育てるためには、学校支援員や介助員を活用したきめ細かな教育の展開や家庭や関係機関との連携による心の教育の充実、教職員の指導力向上などが求められている。</p>							
施策の情報整理	目指す成果	一人ひとりの個性を活かし、基礎・基本を徹底させ、思考力・表現力を伸ばす教育により、確かな学力と豊かな心を持ち、社会の変化に対応する、たくましく生きる児童生徒が育成されている。						
	成果指標及び実績	指標	現状値	平成27年度	平成28年度	平成30年度 (教育振興基本計画目標値)	目標数値の説明	
		千葉県標準学力検査の県平均との比較	小90% 中40% (H25)	小100% 中80%	小100% 中90%	小100% 中100%		2月に実施される学力検査の結果が県の平均に到達している小中学校の教科の割合
	施策全体の達成度 (★★★★)	★★	目標を達成(100%) ★★★★	目標をほぼ達成(80%以上) ★★★	目標を達成していない ★★	現時点では判定できない —	施策の事業費 (上段:最終予算) (下段:決算額)	31,259 千円 29,917 千円
		達成度の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上プラン推進(わくわくドラム)については、年々参加児童生徒数が増加し、基礎学力の定着と学習習慣の定着が進んでいる。 ・中学生の海外派遣事業については事前学習をさらに充実させることで、生徒の学習意欲を高めることができた。また、事後の報告会においても、事業の成果を十分に発揮した発表ができた。 ・町雇用の学校支援員、スクールカウンセラーについては概ね学校の要望に応じた配置ができており、教育支援センター事業も効果を上げている。 ・就学相談についても丁寧な面談をおこない、成果を上げることができた。 以上のとおり、施策の効果は十分にあったと言えるが、達成度としている指標の数値は目標値に達しなかった。しかしながら、中学校の学力検査においては、基礎学力の定着が図られ、目標値に近づくとすることができた。					
	設定成果指標以外に現れた成果の説明	運動能力証の交付を受けた児童生徒数(小学校5、6年生、中学校1~3年)が234名となり、小中学校別の交付率では小学校33.9%、中学校34.5%となっており、それぞれ都市平均(小学校31.6%、中学校26.7%)を上回っている。						
外部環境の変化や住民ニーズの変化など、今後、課題と対応が予測されるもの	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員のモラルアップに対する取組 ・学習環境と教員の「授業力」の向上 ・特別支援教育に関するニーズの高まりときめ細かな対応 ・スクールカウンセラーの必要性の高まり 							
住民との協働や他課の事業との連携	・月1回、要保護児童に関する情報交換を、福祉・子ども課、生涯学習課と行った。							

2. 事務事業の取り組み

(単位:千円)

事務事業名	平成28年度の取組実績	事業の評価(取組の課題及び今後の課題への対応)	事業費	
① 学力向上プラン推進事業	<ul style="list-style-type: none"> ・授業改善推進業務 11月の学力パワーアップ総合月間に全校で実践活動を実施した。 ・栄町学力向上推進事業 学カスタンダードを活用した取組においては、児童・生徒の漢字・計算の基本的技能の向上に寄与し、千葉県標準学力テストにおいても、前年度の数値を上回るものが多かった。 ・栄町学習道場(わくわくドラム)事業 ①7月~8月の夏季休業中、「基礎学力充実コース(14回)」,12月の冬季休業中、「基礎学力充実コース(3回)」を実施し、長期休業中の児童・生徒の家庭学習の習慣づけに寄与するとともに、基礎基本の充実、探究的学習への意欲づけを図ることができた。 ②年間を通して、「サタデーわくドラ」として栄町学習道場を隔週土曜日に開催し(年間全18回)基礎基本の充実を図ることができた。 	【取組への課題】 ・学年、学校により、学力テストの県平均を上回っていない教科がある。小中連携による実効性のある授業改善研修を一層推進する。 ・学習指導要領等の改定に伴い、学カスタンダードも改定していく必要がある。	H26 決算	861
			H27 決算	1,316
			H28 予算	1,276
			H28 決算	1,101
② 国際化に対応した人間教育事業	<ul style="list-style-type: none"> ・小・中学校外国語教育推進業務 小・中学校に外国語指導助手(ALT)を配置し、小学校外国語活動及び中学校英語指導の支援を行った。 ・栄町元気事業支援日本食研基金中学生海外派遣事業 国際理解教育の推進のため、町内の中学生(12名)をオーストラリア・クイーンズランド州へ派遣し、現地校での語学研修とホームステイ体験を行った。 ・英語検定助成事業 中学校卒業時に英検3級以上の英語力を身に付けていることを目標とし、年間1回受検料の全額助成を行った。 	【取組への課題】 ・小学校外国語活動及び英語の早期実施を見据え、小学校教職員研修の充実と外国人指導員の配置が急務である。 ・国際理解教育を更に推進するための海外派遣事業に参加した中学生が、現地の方と継続して交流が持てるような工夫が必要となる。 ・東京オリンピック・パラリンピック開催年の2020年に向け、国の設定する目標「中学3年生の半数が英検3級相当の英語力を身につける」の達成に向けて、具体的な対策を講じる必要がある。	H26 決算	4,671
			H27 決算	7,048
			H28 予算	10,520
			H28 決算	9,763

③	個に応じた授業改善推進事業	<ul style="list-style-type: none"> 指導法改善推進業務 小学校4校に学校支援教員を配置した。 特別支援教育整備業務 小学校3校、中学校1校に介助員を配置した。 教育支援委員会運営業務 教育支援委員会を開催し、答申により適正な就学指導を行った。 印教連よりアクティブラーニングによる算数の研究指定を受けた、竜角寺台小学校への支援を行った。 	【取組への課題】 ・年々特別な支援を必要とする児童生徒が増えていることから、就学相談、就学指導を適切に行うと共に、介助員の増員についても検討する。 ・インクルーシブ教育システム構築のための研修を推進し、どの児童生徒にとってもわかりやすい授業づくりをめざす。 ・町内教職員の指導力向上のため、小・小、小・中連携を拡大していく。	H26 決算	17,928
			【課題を踏まえ今後の対応】 ・保護者の意向を踏まえ、相談業務、就学指導について適切に対応していく。 また、学校、教育委員会の役割を明確化するとともに、特別支援学校も含めた3者間の連携を密にし、児童生徒の状況に応じた就学支援を行っていく。	H27 決算	12,726
				H28 予算	13,521
				H28 決算	13,232
④	豊かな心、健やかな体づくり教育推進事業	<ul style="list-style-type: none"> 教育相談体制整備業務 教育相談体制として教育相談員、小学校スクールカウンセラーを配置した。 教育支援センター運営事業 年間30日以上欠席の児童生徒は小学校9人、中学校22人おり、「ゆうがく館」に指導員を配置し、不登校児童・生徒に対する指導、相談及び集団適応支援を行った。通所生徒のうち、3名の児童生徒が学校に復帰するなどの効果があった。 生徒指導支援業務 生徒指導担当者会議を6回開催し情報の共有を図り、生徒指導の助言を行った。 学校人権・道徳教育推進業務 指導主事が学校に出向き、道徳教育について指導・助言した。 体力向上、健康増進教育推進業務 毎年、新体カテトを実施し、食育の推進を行った。 学校図書館教育推進業務 学校図書館司書を各校に配置し整備を図った。 	【取組への課題】 ・図書館司書として継続して勤務できる専門性の高い人材確保が課題である。 ・主に不登校対策としての専門性の高い人材確保が課題である。	H26 決算	6,018
				H27 決算	6,298
			【課題を踏まえ今後の対応】 ・児童・生徒の学習意欲向上のため、学校図書館司書を継続して配置する。 ・SC小学校1校に人配置を継続する。 ・アウトリーチ型の長欠児童生徒対策を検討する。 ・不登校対策にかかる専門員の配置について検討する。	H28 予算	5,358
				H28 決算	5,254
⑤	学校教育を担う人材の育成支援事業	<ul style="list-style-type: none"> 教職員研修支援業務 各学校の校内研修会の開催の支援をした。教職員の資質向上支援のため、各種教職員の所属する専門性を高める研修会の負担金の補助を行い、教育課題に対応できるよう各種研修会を開催し、資質向上に努めた。 	【取組への課題】 ・教職員の不祥事を根絶するための研修会の在り方について、当事者意識が持てるよう考慮する必要がある。	H26 決算	744
				H27 決算	539
			【課題を踏まえ今後の対応】 ・OJTや研修を充実させ、教職員の資質向上を図る。 ・毎月の教頭会議においてモラールアップ研修を取り入れると共に、指導法の研修を行うことで職員への指導力を高めていく。	H28 予算	584
				H28 決算	567
合計				H26 決算	30,222
				H27 決算	27,927
				H28 予算	31,259
				H28 決算	29,917

施策評価シート

1. 施策の情報整理

施 策 名		学習環境の充実					
現状と課題		町の人口減少と共に少子化による児童・生徒数の減少が予測される中、学校運営や教育活動など子どもたちへの教育の影響の大きさが懸念される。児童生徒及び教職員がより良い環境で学習することができ、安心して学校生活を送れるようにするための学習環境の整備が必要である。					
施策の情報整理	目指す成果	児童生徒は生活面においては必要な援助が受けられ、学習面においては十分な教材を活用し、授業を受けることができている。また、児童生徒及び教職員は健康面においても安心して学校生活を送れるようになっている。					
	成果指標及び実績	指標	現状値	平成27年度	平成28年度	平成30年度 (教育振興基本計画目標値)	目標数値の説明
		児童・生徒の学校に対する評価	91% (H25)	93%	94%	95%	
	施策全体の達成度 (★★★★)	★★★★	目標を達成(100%) 目標をほぼ達成(80%以上) 目標を達成していない 現時点では判定できない	★★★★ ★★★ ★★ ★ —	施策の事業費 (上段:最終予算) (下段:決算額)		61,631 千円
	達成度の理由	<ul style="list-style-type: none"> 教科書給与業務については過不足なく給与することができた。また、補助金交付業務についても、適時に交付することができた。 私立幼稚園就園奨励費補助金、私立幼稚園保育料等助成金についても適正に執行することができた。両補助金により多子世帯の保育料は無料となり、保護者負担の軽減について十分な効果をあげている。 学校保健事業については、定期健康診断、生活習慣病予防健診、精密検査等を通じ、児童生徒及び教職員の身体的な健康管理を行うと共に、教職員についてはメンタルヘルス不調を未然に防ぐため、新たにストレスチェックを実施した。 就学支援事業については、支援をのぞむ保護者に対し、公平公正に調査検討し、必要な支援をおこなった。 学齢簿の管理、区域外就学等について適正に事務をおこなった。 以上のことから、昨年度比2ポイントの減ではあるが、施策全体としては目標を達成したと判断した。					
	設定成果指標以外に現れた成果の説明	<ul style="list-style-type: none"> 統合後の小中学校の児童生徒は安心して学校生活を送ることができている。特に中学校の部活動においては生徒の活躍が期待される。特に卓球部の活躍が顕著である。 					
	外部環境の変化や住民ニーズの変化など、今後、課題と対応が予測されるもの	<ul style="list-style-type: none"> 食物アレルギーを持つ児童生徒のアナフィラキシーショックに対する対応。 定期健康診断の内容が一部変更になり、児童生徒には運動器検診、教職員にはストレスチェックが追加された。 					
住民との協働や他課の事業との連携	<ul style="list-style-type: none"> 健康介護課(食育・歯科保健指導) 教育総務課(施設管理) 						

2. 事務事業の取り組み

(単位:千円)

事務事業名	平成28年度の取組実績	事業の評価(取組の課題及び今後の課題への対応)	事業費	
① 学習環境充実事業	<ul style="list-style-type: none"> 中学校教科書改訂及び教科書給与業務教科書の給与業務を適切に行った。 補助金交付業務「生徒ヘルメット補助金」「中学校部活動補助金」の交付業務 学校教育振興・運営業務各学校へ予算を配当し適切に執行管理を行った。 	【取組への課題】 ・毎年度学校配当予算削減を余儀なくされるなか、学校配当予算の適切な執行について学校と連携を図っていく必要がある。	H26 決算	10,423
			H27 決算	17,822
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・消耗品等の適正な支出について、学校内で調整を図ることを推進すると共に、学校事務職員と教育委員会事務局が連絡を密にし、学校事務共同実施を活用しながら適正な執行をおこなっていく。また、町の研究指定校制度を創設し、必要な予算を確保していく。	H28 予算	13,589
			H28 決算	13,338
② 私立幼稚園就園奨励費補助事業	<ul style="list-style-type: none"> 私立幼稚園就園奨励費補助業務私立幼稚園に通園している町内在住の園児の保護者に対し、経済的負担を軽減するため、負担能力の程度(世帯構成と町民税所得割課税を確認)に応じ、保育料の所要経費の一部を補助した。 	【取組への課題】 ・国の補助限度額が毎年度段階的に拡充されるため、町の規則改正も必要になり、同時に支出も増額になる。	H26 決算	29,792
			H27 決算	29,657
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・国の基準の改正を踏まえ、町の規則を改正し、財政部局と調整しながら適正に事業を実施していく。	H28 予算	30,870
			H28 決算	29,965
③ 私立幼稚園保育料等助成事業	<ul style="list-style-type: none"> 私立幼稚園保育料等補助業務多子世帯の経済的負担の軽減として、私立幼稚園に通園している、町内在住の第3子以降の園児の保育料を無料にするため、保育料等から私立幼稚園就園奨励費補助金を差し引いた残りの金額を全額助成した。 	【取組への課題】 ・特になし	H26 決算	
			H27 決算	3,002
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・引き続き助成事業を実施する。	H28 予算	2,500
			H28 決算	2,292

④ 学校保健衛生事業	<ul style="list-style-type: none"> ・定期健康診断業務・生活習慣病予防健診業務 児童生徒に内科検診・歯科検診・眼科検診・耳鼻科検診・脊柱側弯症検診・心電図検査・結核検診・尿検査・運動器検診を実施した。 教職員については新たにストレスチェックを実施した。 ・中学1年生、小学校5年生に生活習慣病予防健診を行った。 ・学校保健に関する業務 米町学校保健会の事務局として学校医、学校歯科医の健診の日程調整を行った。 ・学校衛生管理業務 学校給食の配膳に関わる学校用務員の細菌検査を行った。夏休み中に学校配膳室の害虫駆除を実施した。 ・災害共済給付に関する業務 学校の管理下の児童生徒の災害に対応する日本スポーツ振興センターの掛金の納付、給付金の請求事務を正確に処理した。 	<p>【取組への課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の健診に新たに加わったストレスチェックの結果をどのようにフィードバックしていくか。 <p>【課題を踏まえ今後の対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ストレスチェックの結果が思わしくない人は改善に向かえるよう、また心に不安を抱える人は払拭できるよう、適切な事後指導をおこなう。 	H26 決算	7,689
			H27 決算	6,767
			H28 予算	7,448
			H28 決算	6,962
⑤ 就学支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ・要保護及び準要保護児童生徒就学援助業務 学校教育法に基づき、経済的理由により就学困難と認められる児童生徒の保護者に対し、教育委員会会議で認定を受け、必要な援助を行った。 ・特別支援教育就学奨励業務 特別支援学級に在籍する児童生徒の保護者に対し、経済的負担を軽減するため、負担の能力に応じ、就学に必要な援助を行った。 	<p>【取組への課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就学援助に対する認識が保護者間、学校間で差がある場合があることから就学援助について周知を徹底させる必要がある。 また、新入学児童生徒に対し、入学前に新入学用品の購入費用を支給する入学準備金支給制度を創設する市町が増えている。 <p>【課題を踏まえ今後の対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学説明会の際の保護者への周知、要保護及び準要保護児童生徒認定要領及び認定基準等の学校への周知を徹底し、保護者間、学校間の認識が等しくなるようにする。また、民生委員にも総会等の機会を活用し、準要保護の制度について周知を図っていく。 入学準備金の支給については、近隣市町の動向を確認し、導入に向けて検討する。 	H26 決算	5,762
			H27 決算	6,338
			H28 予算	6,545
			H28 決算	4,786
⑥ 就学事務の適正化推進事業	<ul style="list-style-type: none"> ・就学時健康診断業務 学校教育法に基づき、就学指定校の変更、区域外就学に関する業務、入学通知に関する業務を適切に行った。小学校への就学前児童の就学時健康診断に関する事務についても、入学通知業務同様に入転入の管理をして適切に行った。就学に関わる事務を適切に行った。 ・学籍管理・学校の就学に関する業務 ・学齢簿に関する業務 学齢簿に関する業務として、就学予定者と転入児童生徒の学齢簿を新規に作成した。また、転出入児童生徒の学齢簿記載事項の変更について、加除訂正を適切に行い、該当校長に通知した。児童生徒の転入・転退学の管理事務を適切に行った。 ・各種調査研究・統計に関する業務 	<p>【取組への課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし <p>【課題を踏まえ今後の対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適正に事務を遂行する。 	H26 決算	587
			H27 決算	586
			H28 予算	679
			H28 決算	625
⑦ 子育て世帯家庭教育支援事業	平成28年度より生涯学習課へ事務移管	<p>【取組への課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <p>【課題を踏まえ今後の対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 	H26 決算	
			H27 決算	1,081
			H28 予算	
			H28 決算	
合 計			H26 決算	54,253
			H27 決算	65,253
			H28 予算	61,631
			H28 決算	57,968

施策評価シート

1. 施策の情報整理

施策名	学校給食の充実					
現状と課題	近年「食の安全性」に関して危惧される事案が多く見受けられる。このような状況下、町は児童・生徒に安心・安全な給食を提供するため、より一層安全衛生基準に基づいた取り組みを講じていく必要がある。 また、給食をとおして食の重要性を児童生徒が理解し、その結果、給食残菜の軽減に繋がるよう食育に関する指導体制が求められている。					
施策の情報整理	目指す成果	児童生徒の心身の健全な発達に資するため、適切な栄養摂取による健康の保持増進と望ましい食習慣を養うことから学校生活における食育の充実を図る。				
	成果指標及び実績	現状値	平成27年度	平成28年度	平成30年度 (教育振興基本計画目標値)	目標数値の説明
		児童・生徒の給食を食べた量の割合(%)	85% (H25)	90% 85%	90% 88%	
	達成度の理由	★★	目標を達成(100%) ★★★ 目標をほぼ達成(80%以上) ★★ 目標を達成していない ★ 現時点では判定できない —		施策の事業費 (上段:最終予算) (下段:決算額)	141,270 千円 138,867 千円
	達成度の理由	児童生徒の給食における摂取状況を主食、主菜、副菜、牛乳、デザートに分類しそれぞれの残菜傾向を踏まえバランスよく食事がとれているかを判断する。その結果全休量のほぼ9割が摂取できている状況であることから、個々に必要な栄養素は適切に摂取されているものと判断する。また、昨年同様、中学生の喫食率が小学生より低い傾向にあるため、食育等を通じて更に「食に対する意識」の向上を高めていく必要がある。				
	設定成果指標以外に現れた成果の説明	総合的には、施設機能の適切な維持管理及び食材の安全性を確保しながら、日々安全で安心な給食を児童生徒に供給することができていることから「目標はほぼ達成」と判断した。				
	外部環境の変化や住民ニーズの変化など、今後、課題と対応が予測されるもの	○施設維持管理事業:経年劣化による調理場内設備等の機能低下が懸念されるため、適正な調理機器の更新及び修繕を計画的に進めていく。 ○給食事業:元気さかえ食育推進プランにより、学校、家庭、地域が一体となり子ども達が自らの食について考え、選択する判断力を身につけ生涯を通じて健全な食生活をおくれるよう指導していくことが必要である。 また、食物アレルギーを持つ児童生徒のアナフィラキシーショックに対する対応が求められている				
住民との協働や他課の事業との連携	・産業課及びJAとの連携による地元産産物の利用の促進 ・福祉課と連携し給食費の適正な徴収を図る(児童手当からの徴収) ・町のごみ減量化計画との関連性					

2. 事務事業の取り組み

(単位:千円)

事務事業名	平成28年度の取組実績	事業の評価(取組の課題及び今後の課題への対応)	事業費
① 給食運営事業	○安全衛生基準に基づいた食材の調達及び調理、配送を行い給食の安定供給を確保する。 提供日:193日 食数:1,300食/日 ○栄養指導業務 栄養教諭による各小中学校での食に関する授業を実施。(小中学校各4~6回) ○残菜処理業務 残菜量を計測・分析することにより、栄養バランスを考慮した献立の充実に努める。	【取組への課題】 ・栄養士による食育を通じた栄養指導及び各小中学校の担当教諭と連携しながら喫食率の向上及び給食残菜の減量化に取り組んでいるが現状は目標数値に至っていない。	H26 決算 143,993
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・昨年度比3ポイント上昇したが、今後も食育等を通じて児童生徒へ「食の大切さ」を呼びかける取り組みを行っていく。 ・各学校へ食に関する啓発チラシの配布及び「完食賞」の実施を行う	H27 決算 137,954
			H28 予算 135,728
			H28 決算 133,425
② 施設維持管理事業	○給食の安定した供給を図る為、調理場施設の機能維持管理を強化する。	【取組への課題】 施設内における配管設備及び調理機器に対する修繕箇所が、年々増加傾向にある。施設機能の低下による給食の安定供給を損なうことのないよう適切な維持管理を行っていく必要がある。	H26 決算 4,678
		【課題を踏まえ今後の対応】 施設の改修計画及び厨房機器の更新計画を作成する。	H27 決算 5,383
			H28 予算 5,344
			H28 決算 5,332
③ 給食費徴収事務事業	○学校及び町の関係課と連携し、滞納者との納付相談等を積極的に行い徴収に努めた。 ○収納対策の強化として長期滞納者に対し法的措置の周知を行う。 ○(現年度)徴収率は昨年度比:0.7ポイント上昇(過年度分)徴収率は昨年度比:1.4ポイント上昇	【取組への課題】 学校給食費における収納率は現年度・過年度分ともH27と比較し向上したが、特に過年度分の滞納額が大きいため今後更なる強化が必要である。	H26 決算 112
		【課題を踏まえ今後の対応】 栄町学校給食費徴収事務取扱要綱に基づき関係課及び学校と連携し適正な賦課徴収を行う。過年度分長期未納者に対して法的措置を視野に入れた手続き及び納付相談を実施する。	H27 決算 107
			H28 予算 198
			H28 決算 110
合計			H26 決算 148,783
			H27 決算 143,444
			H28 予算 141,270
			H28 決算 138,867

学識経験者の意見（基本方針（1）について）

【施策名：教育行政の充実】

- ・「外部環境の変化や住民ニーズの変化など、今後、課題と対応が予想されるもの」の欄に、教育の政治的中立性という文言が去年は入っていなかったのですが、今回記載されているのは、教育の政治的中立性が侵される危険性があるという事ですか。
- ・去年の意見の中で、子ども目線でということが出ていましたが、今年は目指す成果の中に、「夢に向かって挑戦する栄っこ」と入れてあるので、すごく良かったと思います。去年意見があり、回答にそう書いてあったので、この文言が入ったことで目指す成果がよりはっきりしたと思います。
- ・課題を踏まえ今後の対応のところで、情報の共有化、意識の共有化等をより一層徹底してとありますが、教育委員会議等で常に協議・検討をしていくとなっていて、教育委員さんたちの情報の共有化もされている事だと思います。そこで、学校現場からの報告もきちんとなされるように、学校現場で起きている事を教育委員会に報告していただかないと、教育委員会で把握できないと思います。小さなことでも校内では担任から、報告・連絡・相談を大切にしているところですが、それを教育委員会に学校ではこういう事が問題になっている等を報告していただき、教育委員さんたちにも共有してもらいたい。そして、議論して進めていただくというのも大事だと思います。
- ・2020年から教育の現場も変わってくる。プログラミング教育(※1)が入る、ICT(情報通信技術)を用いた授業が入ってくる、英語教育が入るなど先生方も大変だと思います。まだ若干時間がありますので、是非それに向けた色々な取組みについて、少しずつ授業の中に入れていくとか、携わる先生方の研修に、より一層力を入れていただければと思っています。特に、今後生徒たちが自分で課題を見つけて、自分で解決していくそういう力をつけさせていく教育が、今までのように知識とか技能を教える教育にプラス加わってくるのではないかと思います。学びのファシリテーター役(※2)を先生が務める機会も多くなると思いますので、他の教育現場あるいは海外のいろいろ成功している事例などを参考にして、取組んでいただきたいと思っています。期待しております。
- ・教員の方の負担軽減は大事で、出来るだけ早くICT(情報通信技術)を活用した校務の支援システムを構築していただき、教員の負担軽減を一層努力していただければと思っています。
- ・「チーム学校」と言いましたが、外部の地域の見識のある方々や企業の協力をいただくことも目指し、教員の方々をサポートする、学校をサポートする、色々な支援体制の構築を図ることを通じ、地域の教育力を高めるという観点で積極的な声かけをなされていけば良いと思います。

【施策名：学校教育環境の整備】

- ・昨年の報告書を見ると、プールが使えないので印西市のプールを使わせてもらったとのことでしたが、その後はどうなっているのですか。
- ・大変厳しい予算の中で、努力されているのが良くわかりますので、引き続きやっていただきたい。
- ・昨年の報告書を見ると先生方の校務が多忙なので、パソコンなどで校務の仕事をする

といいのではないかという意見があったと思いますが、今の栄町は先生方にパソコンは1人1台ずつ支給されているのですか。

- ・システムが町内で統一されると、先生方はすごくやりやすいと思いますので、財源がない中ではありますがよろしくお願いします。
- ・2020年からプログラミング教育(※1)が指導要領の改定に基づき始まります。同じ2020年から英語が小学校3年から前倒しで始まります。電子黒板、LAN、パソコンを生徒に配給するという整備計画というのはどういう風になっていますか。
- ・空調やトイレを整えていただいたので、ありがたく、布鎌小のわくわくドラムの際は、子どもたちが快適な中で学習ができていましたので、とても良かったと思います。

【施策名：特色ある学校づくりの支援】

- ・通学安全対策で、シルバー人材センターの活用というのはすごく良いし、うまく機能していければ非常に良いと思います。
- ・「栄っこ宣言」は、大変いいと思う。小中学生全員にクリアファイルを配布したということですが、父母への理解を徹底させるということ、直接の父母への理解徹底を図るということは、より一層生きてくると思うので、努力していただきたい。
- ・教職員の適正配置は非常に難しい部分があると思いますが、働き方改革の教員の労務管理、働き方改革の推進の中で、いかに負担を減らしていくかということもある。外部人材をうまく活用してできるだけ教員の方々の負担を軽減して、本来の教育に専念できるように配慮すると良いと思います。先生方は、大変人数が少ない中で大変だと思います。ですので、部活動の支援員やICTの支援員、外国語の支援員など栄町で今まで経験を積まれてきた方々がいると思うので、協力しあって「チーム学校」という中で先生と一緒に取組んでいくという仕組みの中で、適正配置事業ということを考えていくと、より一層いいのではないかと思います。
- ・「栄っこ宣言」は、すごくいいと思っています。式典、全校集会等の行事でも唱和をするということで、実際聞きました。良かったと思います。後は、各学年に合わせて、意味をきちんと理解できるという風にしていただきたい。唱和はできるけれど、意味を忘れてしまったりすると、せっかく心を育てる、夢に向かってということがなくなってしまっているので、担任にも指導してほしいと思います。
- ・交通安全教室をやっているということですが、栄町は防犯教室はやっているのですか。
- ・防犯教室も不審者対応や警察にお願いすると講師も来たりするので、そういうのも1年生に取り入れてもらえるといいと思います。
- ・教職員の適正配置で、先生方が急に病気になったりすることがあり、すぐに変わりが来ればいいが、3学期位になると来ないのが現状だと思います。その時に、町負担による事故対策教員を配置していただくと、学校現場は助かると思うのでよろしくお願いします。
- ・学校評議員を全校に配置したということは、大変いいことだと思います。うまく学校評議員を活用されることを、より一層重視していただければと思います。学校評議員をうまく活用できるように、形骸化しないようによろしくお願いいたします。
- ・同じ考えですが、栄町は学校評議員、ふれあい推進員、放課後ふれあい教室などが盛んで、良くやってもらっていると思っています。学校の管理職の方が、学校評議員に来ていただき、そこからの意見を管理職が受け止めてそれを、担任や職員に話しているところだと思いますが、そこがうまく担任に伝わらない学校があったりします。その辺は、

教育委員会から管理職や先生方に伝わるように、学校の活性化にもなるので、もしかしたら、校長先生方も悩んでいる部分かもしれませんが、職員にも学校評議員からの意見を踏まえて、教育活動していくというところを、情報として入るようにはしてもらえればと思います。

- ・達成度は★2つになっていますが、見ていて、栄町にも関わらせていただいて、すごく良くやっているのので、★3つでいいのではないかと思います。数値的には下がっていますが、保護者がわかっていない部分があるのではないかと思います。ですので、達成できていると思うので、★3つでいいと思います。

【施策名：きめ細やかな学校教育の推進】

- ・特別に支援を要しなければならない子は、各市町村でも各学校でも増えていると思います。栄町では、支援員を学校に配置して学校の要望通りになっているということなので、それが財政課との話し合いになると思いますが、学校としては、特別に、例えばADHD(注意欠陥多動性障害)や多動性の子、高機能自閉症の子たちが集団に入ってくると、一人の担任ではきめ細かい指導ができにくいものなので、支援員をこのまま学校の要望どおりに配置していただくと、子どもたちも学習しやすくなると思うので、よろしくお願ひしたいと思います。
- ・いじめを出さないということで、きめ細かにいろいろ生徒指導していると思いますが、これから道徳が教科化されるようになるので、栄町教育振興会でも話し合いが進んでいるかもしれませんが、道徳についても教材開発や授業改善、指導力の向上ということで、そういう研修が入っているのであれば、更にそれにも力を入れていただき、道徳が教科化された時に評価も含めてスムーズにできるようにお願いできればと思います。
- ・わくわくドラムの事業をやっていて、非常に子どもたちの参加率がいい、布鎌小でもすごく参加率は良かったと思います。内容ですが、ボランティアの方や先生方も協力して子どもたちに指導しています。それはすばらしい事だと思いますし成果も出ています。そこで、家庭にも、家庭の教育力ということで、学校に任せるだけでなく今の実態がこうだから、家庭でも家庭教育、家庭学習というものをどういうふうに見たらいいかというものも、更に含めて発信していった方がいいのではないかというふうに思いました。
- ・英語検定助成事業で、半数が英検3級以上ということはすばらしいと思います。是非力を入れていただき、半数を超えるほどの生徒が英検3級をとれることは、本当に学習に対して意欲が出てくると思いますので、いい事業だと思いました。
- ・個に応じた授業改善推進事業で、保護者の意向を踏まえ、相談業務、就学指導について適切に対応していくということで、親の個別面談も細かに行っていると思いますが、就学指導に関しては、例えばこれから上がる1年生でも障害をもっていたり、特別に配慮しなければならないということで、親も困っている面もあると思うので、就学のことについては、きめ細かく相談ができるといいと思っています。こじれてしまうと、なかなか特別支援学級や通級に行かなくなってしまいますので、そうすると子どもたちがうまく特別支援を受けて伸びるというふうにはいかないと思うので、大変かもしれませんが就学支援はきめ細かにこれからも見ていただきたいと思います。
- ・ゆうがく館に不登校対策専門官が入られたことで、学校とのパイプができたという事がありましたので、そのパイプがすごく大事だと思います。ゆうがく館の子どもたち、裏にいる親たちが、学校に戻るとした時に、どういうふうに学校として対応しているのか、今はゆうがく館でどういう事をやっているのかということ、不登校対策専門官が

パイプ役になることで、早めに行ったりすることができると思うので、そういう風に進めていただければありがたいです。

- ・教職員の不祥事についてですが、栄町からは絶対に不祥事を出さないということをお願いいたします。もちろんやっつけていただいておりますが、教職員の社会性、教職という仕事に誇りを持つということ、これからも指導をお願いいたします。
- ・事業の評価で28年度は一生懸命取り組んでいただいて、大変よろしいかと思っております。ただ、今後の対応の部分で、2020年から学習指導要領の改訂などで、産業界から見ますと、グローバル人材の育成、テクノロジー(科学技術)を活用したイノベーション(革新)に貢献出来る人材をこれから求められてくる。政府の未来投資会議でも、第4次産業革命でイノベーション(革新)が取り上げられていますが、そういうことを見据えて2020年から英語教育、ICT教育(※3)、アクティブラーニング(※4)を使った教育が入ってくると思います。まだ時間があるので、今のうちからしっかりとそれを見据えた取り組みを具体的に行っていく必要があると思っています。先生も忙しいし大変だと思いますが、プログラミング教育(※1)が2020年から始まるし、英語も小学3年生から前倒しになりますし、アクティブラーニング(※4)を実際にどのようにやれば教育現場で効果が上がるのかということは、先生自身も悩んでいるのではないかと思います。能力の問題ではなく経験の問題ということがあるので、今後、課題として、パソコン、LAN、電子黒板などの整備をきちんとしていただくということが一つ、その上でアクティブラーニング(※4)をどううまくやれば、子どもたちに浸透させて教育効果が上がるのかということをしかりと先生方の中で議論いただければと思っています。アクティブラーニング(※4)に走るがあまり、英語、国語、漢字、計算など、そういう基礎教育が結果的におろそかにならないように、ドリルや読書などとアクティブラーニング(※4)がうまくバランスよく教育現場でなされるべく、今後の対応について考えていただければ良いと思っています。各学校で成功事例があるやに聞いています。こういった成功事例を教育委員会で幅広く先生方に、ある場合には父兄も含めて、紹介いただき、情報の共有化を図って効果的な内容にいただければ良いと思います。
- ・英語教育ですが、英検3級相当の英語を身につけさせることは、言葉は簡単ですが実際大変ご苦労されていると思います。子どもたちにとっては、私もそうでしたが教科書を見て勉強するという事は、英語の好きな子は別ですが、大変苦痛だと思います。まず、英語に対する楽しさ、関心などを持たせる事が、特に初等・中等教育では大事だと思っています。幸い、成田空港が近いという事で外国人がたくさん住んでいますし、色々な外国人に接する機会が栄町にもあると思います。そういう意味では、教材や英語教育そのものも、教科書で教える、英検3級の試験に出るから教えるというだけでなく、生きた英語教育ということで、外国人にインタビューする、成田山に連れて行ってインタビューするなど、英語はしゃべるとこんなに楽しくなるんだという、そこから入るといふ事が結果的には、急がば回れで、無理やり単語を覚えるより効果があるのではないかと。ICTを使って動画をみんなで電子黒板を見ながら議論するなど、これもICTの機材をうまく活用して、英語教育とアクティブラーニング(※4)とICT(情報通信技術)の3つの機能をそれぞれ活かしての立体的な英語教育を通じて、結果的に英検3級相当が身につくというのがいいと思います。色々な課題はあると思いますが、関心を持たせながら英語教育に引き続き力を入れていただければと思っています。
- ・教職員の研修ですが、校内外にとらわれず、他の学校に行って授業を見るなど、体験するような機会は研修の中にあるようなので、先進的な事例を直接見て、教育現場に活

かしていただければと思います。普通、学校の先生の研修は1ヵ所に集めてやるようなパターンが多いようですが、教育委員会の指導主事が学校を訪問してやっているようですので、そのように是非やってもらえればと思います。

- ・基準は難しいかと思いますが、優秀な先生を表彰する制度はあるのですか。
- ・表彰制度は、先生の励みになるので大変効果的だと思います。特に、子どもにとって国語については文章が読めないのではなく、理解力が乏しいという状況があると思います。また、色々議論をしたり自分で課題を見つけて自分で解を出していくという、そういった深まった学びが今後一層大事になってくると思います。そのため、「授業の達人」の先生方を一層活用していただければ効果的だと思います。

【施策名：学習環境の充実】

- ・ストレスチェックを教職員にやっていると思いますが、チェックしたあと、学校の先生は校内で校長先生やモラルアップの委員長などで面談しながら教員の様子を観察していると思います。非常に増えてきていると思いますので、子どもたちに指導するにあたっては、心が明るく健康で指導できるということが最適ですので、これからもチェックしながら事後の指導をきちんとできるようにしてほしいと思います。
- ・学齢簿の作成で、漏れはないと思いますが、すごく大切な学齢簿の作成になってくると思いますので、就学前の行方不明や虐待防止などにもつながるので記載漏れがないようにしてほしいと思います。

【施策名：学校給食の充実】

- ・栄養教諭の配置状況は十分なのですか。
- ・栄町にも管理栄養士の資格を持っている方もいると思うので、足りなければ支援という形もあると思います。中学生の喫食率が低いのはなぜでしょうか。
- ・中学生の喫食率が低いのは、嗜好の問題なのかあるいは違う所に問題があるのか、家庭における食生活の関係が反映されているのか、中学生になると色々なことがあると思います。食が大事なのだという事だけではなかなか向上しないと思うので、ひと工夫が必要ではないかと思います。
- ・栄町は、保護者が給食センターを見学や試食をするということについてはやっているのですか。
- ・子どもたちが一生懸命完食しようということで、学校が取り組むことが多いと思います。小学校はわりと食べると思うが、子どもたちには栄養士や栄養教諭が栄養指導に行くので、がんばって調理員さんが作っているのだから食べましょうというような気持ちを伝えることができるのですが、保護者にも学校給食はこういう風に栄養を考えながらやっている。更に家庭でも栄養を考えたものを出して欲しいというようなことができると思う。ですから、給食センターに保護者が見学に行って、栄養士から保護者にも栄養指導すると、もっと意識が高まると思います。
- ・食物アレルギーを持つお子さんが近年増えているように思えます。アナフィラキシーショックを起こしたり、食べた直後におきなくても昼休みに遊んで運動誘発でアナフィラキシーショックを起こすような児童に向き合ったことがあるのですが、その時にエピペン(※5)などを打ったりします。エピペン(※5)を小麦やそばアレルギーの子は、学校に預けている子も栄町にもいるかもしれませんが、エピペン(※5)を打つ研修など、学校ではやっていないのですか。

- ・実際にエピペンの模造したもので研修できるので、最近の子どもたちは多いのでやる
といいのではないかと思います。
- ・給食費の滞納者はどこの市町村でもいると思いますが、徴収は苦勞されているところ
だと思います。家庭教育学級や保護者がくる授業参観などの折にでも、親の意識を向上
させていくしかないのかなと思います。給食は、教育なのだということも親の意識を変
えて、きちんと子どもを育てていくうえで、給食費を払うんだという意識向上を図って
いく必要がすごくあると思います。苦勞されていると思いますが、その辺もやっていく
事だと思います。
- ・給食費は過年度分の長期未納者は、公平性の観点もありますし、制度を維持していく
という根幹の部分ですから、大変かと思いますが是非きっちりとした徴収をしていただ
きますように、引き続きお願いしたいと思います。でないと、払った人が損をする、そ
うすると誰も払わなくなってしまう。保険制度と同じように制度そのものも現実的に運
営が難しくなると思いますし、健康が非常に重要なんだと、特に世の中、健康志向にな
っていますので、この辺に焦点をあてて、父兄にも理解してもらい、徴収も引き続き努
力していただければと思います。

【用語解説】

(※1) プログラミング教育

子どもたちに、コンピューターに意図した処理を行うよう指示することができるとい
うことを体験させながら、将来どのような職業に就くとしても、時代を超えて普遍的に
求められる力としての「プログラミング的思考」などを育むこと

(※2) ファシリテーター役

物事を容易にできるようにする人・世話人

(※3) ICT教育

情報通信技術の利用・活用方法を教育の一環として取り入れた教育

(※4) アクティブラーニング

課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学び

(※5) エピペン

アナフィラキシー反応を緩和する用途に用いられる医薬品

学識経験者からの意見を受けて今後の取組みについて

教育総務課より

【施策名：教育行政の充実】

- ・総合教育会議もそうですが、新教育委員会制度で、首長が教育長を指名するという時に、首長の考え方が教育委員会に入ってくるだろうということは、日本全体で課題になっている。そういう時に、今まで教育委員会は政治的中立性・公平性は担保されていたのに、政治色が強くなっていく傾向があるのではないか、それをどう教育委員会としてしっかり担保していくかということで、あえてここにそういう記述をさせていただいています。実際問題、首長の思いが教育長を指名している、教育長も首長の思いの中で動いてくれるだろうということがあって、そうすると首長の政治的なものが入ってくるとか、どうやってそこをしっかりとそうでなく、教育委員会は教育委員会としての公平性・中立性を担保するかということで、あえてここに書かせていただきました。今後も、地方教育行政における責任体制の明確化、迅速な危機管理体制の構築を図りながら、将来社会自立する子どもたちのバランスのとれた教育を推進していきます。

【施策名：学校教育環境の整備】

- ・学校にありますプールは、すべて停止しています。その代り社会体育施設で竜角寺台小にプールがありますので、その都度子どもたちを移送して対応しています。学校プールは循環器等が壊れてしまいましたので、町の方針としましては平成24年から、学校プールを廃止して、社会体育のプールを使うということとしています。
- ・先生方にパソコンは1台ずつ支給しています。ただし、校務システムのような成績や出勤簿などについては、まだ整えていません。中学校は前からそのようなものがあつたらしく、それを利用していますが、小学校はバラバラな状況で統一されていません。そのような状況なので何とかしたいと思い、現在検討しているところです。今後も、児童生徒及び教職員がより良い教育環境で学習することができ、安全で安心して学校生活を送れるよう努力していきます。

学校教育課より

【施策名：特色ある学校づくりの支援】

- ・防犯関係は学校で不審者対応の訓練等はやっています。
- ・教職員の適正配置で、28年度においては事故対策教員の雇用はありませんでしたが、今年度は1件あり、外国語支援で2週間程度配置をして、先生が不在となった後でも、授業に支障がないように配置しています。

【施策名：きめ細やかな学校教育の推進】

- ・家庭教育力の向上については、教育委員会で家庭学習の進め方ということで、冊子を作っていて、それを新入生の保護者にお配りして、参考に家庭学習を認識していただくようには進めています。それをきちんとよく読んでいただき、家庭と協力しながらというのを推進していきたいと思えます。
- ・就学指導の件については、丁寧に進めていかなければいけないと考えています。学校教育課にも、幼稚園・保育園等で特別な支援が必要な子の情報は上がってきています。

発達支援センターと連携をとったり、関係機関と連携をとったりしながら、その子にとって一番いい教育は、どういう風に進めたらいいか、お父さん、お母さんにそれをどういう風に説明するかということが、大きな課題ですが、子どもたちが将来に渡ってきちんと教育が受けられる、その子に合った教育が受けられるように丁寧に指導していきたいと思います。

- ・学校適応専門官が配置されて大きく変わったことは、ゆうがく館に先生方が足を運んでいただけるようになったということと、中学生が不意に学校に行った時に、迎え入れてもらえるというような体制づくりがなかなかできなかったのですが、学校に、行く気にはなっているが、行った時に誰も迎え入れてもらえない対応だと、その子はどこから入ってどうしたらいいかというきっかけづくりが難しいという話を学校適応専門官にさせていただき、いつ行くということを中学校に伝えて、行った時に待っていてくれる先生がいたりして、ちょっとしたきっかけづくりをやっていただいているお陰で、学校に行けるようになっている生徒が増えています。
- ・優秀な先生を表彰する制度はあります。千葉県には「授業の達人」という制度があり、教科の指導等で長けている先生方を県で指定しています。本町にも安食小には国語で、竜角寺台小では算数で指定された教員がいます。国語・算数については、このお二人の先生方を中心に先進的な取り組みをしていただいています。

また、アクティブラーニングに関しましては、次期学習指導要領の「主体的・対話的で深い学び」と称され、町内の全校で研修しております。特に、竜角寺台小学校では、印旛地区教育委員会連絡協議会より指定を受け、「思考し表現する力を高める算数科学習の在り方について」と題し、アクティブラーニングを通した先進的な研究を推進しています。

【施策名：学習環境の充実】

- ・ストレスチェックについては、北総栄病院と提携してストレスチェックの診断結果で医師への受診が進められた職員については、北総栄病院で診ていただくという措置になります。また、職員の健康診断を実施して、本人に任せるといったような形が大きな課題で、検診したけれどその後、職員がどういう風に健康診断結果を活用しているかが取組みの大きな課題になっています。29年度ですが、11月末日までに診断結果を受けて、どういう措置をしたかという経過報告を上げさせるようにしました。

【施策名：学校給食の充実】

- ・現在、給食センターにおける栄養教諭(県職員)の配置は一名です。配置の基準は食数に応じて決まっており本町は1,300食なので1名の配置になります。栄養教諭は献立作成から調理指導、食育指導等の日々煩雑な業務に対応しています。今後人事的な問題として検討していく必要があると感じています。また、食育に関しては、栄養教諭が各小学校に出向き食育指導・栄養指導の授業を行なっています。
- ・中学生の喫食率が低い要因は、嗜好の問題なのか、生徒個人の体調によるものかはっきりした原因は今のところわかっていません。学校での摂取状況を踏まえ再度精査していきます。
- ・保護者による試食会は主に学校で行っており、センターでの試食会は食事をとるスペースが狭隘なため10人程度の受け入れしかできません。施設見学及び家庭での栄養指導といった事については可能ですので今後学校と協議してまいります。

- ・食物アレルギーの対応について、現在エピペンを所有している児童はおりません。県からの通達では、教員によるエピペンの使用は可能となっており同時に研修も行っております。
- ・保護者に対し学校給食は、単に昼食を摂るだけでなく児童生徒の心身の健全な発達や、食事についての正しい理解と望ましい食習慣を身に付けることなどを目的に実施していること、また本事業が保護者からの給食費で成り立っていることを丁寧に説明していきます。
- ・未納世帯の保護者に対し通知だけではなく、積極的にアプローチし納付相談が行えるような体制作りをしていきます。
- ・昨年末に合同家庭学級の際、給食センターの栄養教諭が給食の食べ方や給食はどのようになっているか、カロリー計算などの講話を保護者に行いました。その中で家庭での食事と給食が密接に関係している一つの事例として、ヒジキを給食に出したら、子どもは初めてひじきを見て、黒い棒みたいで気持ち悪がって食べられなかった。保護者に家庭料理でヒジキを作ったことがありますかと尋ねると手が上がらないんです。子ども達は家庭でヒジキを食べていないから、給食のヒジキに対し抵抗感があるようです。給食センターでは毎月献立表を家庭に配布しています。献立の中にはどんな食材があってどんな給食が提供されているのか、また家庭でも給食の献立メニューと同様なものを子ども達に食べさせてみることで、給食への関心が一層強くなってくるのではないかと思います。

基本方針（2）

生涯学習とスポーツを通して、心身ともに健康で生きがいのある生活と心のかよう地域社会をつくとともに、地域の教育力を活かした子どもたちの健全育成を推進します。

【施策名】

- ・生涯学習環境の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P 2 2
- ・生涯学習資料の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P 2 3
- ・スポーツ振興事業の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P 2 4

○学識経験者の意見・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P 2 5

○学識経験者からの意見を受けて今後の取組みについて・・・P 2 6



施策評価シート

1. 施策の情報整理

施策名		生涯学習環境の充実					
現状と課題		<ul style="list-style-type: none"> 家庭や地域の教育力の低下が指摘されており、次代のまちづくりを担う子どもたちが豊かな人間性を育むことができるよう、学校・家庭・地域は、「学び」や「育ち」を支えるためのそれぞれの役割と責任を自覚し、相互の連携と協力のもとに地域全体が積極的に関わっていく体制を構築する必要がある。 子どもたちは、少子化の影響から、異年齢の子どもと「群れて遊ぶ」機会が減少するとともに、核家族化などにより高齢者と日常的にふれあうことが少なくなる等、地域との絆や社会性を育むための機会が少なくなっている。 趣味や関心に基づく個人的な学習活動のみならず、社会的な課題に取り組む学習を支援するため、民間事業者等の活動のみでは得られない学習機会や情報を、行政が積極的に提供する必要がある。 					
目指す成果		生涯にわたり学習することができる環境が整備され、市民は、学習活動の成果を様々な方法で場を活かしながら、地域の課題解決や活性化につなげている。					
成果指標及び実績		指標	現状値	平成27年度	平成28年度	平成30年度 (教育振興基本計画目標値)	目標数値の説明
		生涯学習ボランティア登録者数	684 (H25)	718人	732人	760人	自主的に活動しているボランティアの人数(学習アドバイザー/図書室ボランティア/ふれあい推進委員/こども110番協力家庭/学習サークル活動者)
施策全体の達成度(★★★)		★★★	目標を達成(100%) ★★★★	目標をほぼ達成(80%以上) ★★★	目標を達成していない ★★	現時点では判定できない —	3,075 千円
達成度の理由		<ul style="list-style-type: none"> 自主的に活動しているボランティアの人数は学習アドバイザー20人、図書室ボランティア18人、ふれあい推進委員134人、こども110番協力家庭485人、学習サークル活動者82人の計739人であった。 ふれあい推進委員・青少年相談員・子ども会などの青少年関係団体の活動が活発に展開されている。 放課後ふれあい教室の参加児童の満足度は高い。 以上の事から、「達成」と判断した。 					
設定成果指標以外に現れた成果の説明		<ul style="list-style-type: none"> 子どもが地域の中で安全に、安心して過ごすことのできる居場所づくりや、様々な体験活動、異世代交流の場づくりについては、ふれあい推進委員・青少年相談員・子ども会などの青少年関係団体の活動が活発に展開されている。 放課後ふれあい教室(布織小・安食台小)の児童登録率は両校とも約25%。アンケートから参加児童の教室に対する満足度は高い。 いきいき塾さかえ講座中で、内容が固定化し参加人数が低調なものもあり、見直しが必要が出てきているが講師や設備等の環境整備の問題有り。 子ども110番の登録内容が古く、実態調査を実施したが全ての実態把握が未完了、見直し作業を継続して実施している。 ドラマ自然楽校や通学合宿を充実させるためには、地域の支援者の協力が必須。支援者の確保が課題。 					
外部環境の変化や住民ニーズの変化など、今後、課題と対応が予測されるもの		<ul style="list-style-type: none"> 地域の教育資源(人材・文化・自然等)の有効活用 家庭や地域と連携した安全安心の確保 子どもたちの他校や異学年との交流機会の提供と活動支援 多様な学習情報の提供 					
住民との協働や他課の事業との連携		<ul style="list-style-type: none"> 当施策の事業は、全て関係団体との協働なくして進めることができない。全ての小学校区に設立された「ふれあい推進委員会」では、旧北辺小学校区における、世代を超えて地域住民が一堂に参加する「ふれあい盆踊り大会」をはじめ、学校・PTAとの協力によるサマーキャンプなど、各地域の特性に応じた「ふれあい交流事業」が実施されている。また、「放課後ふれあい教室」と「ドラマ自然楽校」では、ふれあい推進委員会や青少年関係団体、さらには地域のボランティアの活用により、子どもたちへの学習、遊び、体験などの機会を充実させることができた。通学合宿ではボランティアの協力により、団体生活の中で炊事や日常生活の基本を自分自身で行いながら学校に通うことで、社会性を伸ばし、心豊かでたくましく生きる力を育んだ。 					

2. 事務事業の取り組み

(単位:千円)

事務事業名	平成28年度の取組実績	事業の評価(取組の課題及び今後の課題への対応)	事業費	
① 生涯学習活動支援事業	<ul style="list-style-type: none"> 団塊の世代の活動支援など社会的な課題に対応した各種講座と、長期休養期間中におけるキッズ教室を開催した。 ○いきいき塾さかえ講座(29回開催:延べ参加者376人) ・パソコン教室(18回、延べ参加者72名) ・木工教室(2回、延べ参加者79名) ・男の料理教室(延べ参加者48名) ・国際理解講座(延べ参加者18名) ・浴衣着付け教室(延べ参加者14名) ・地図づくり講座(延べ参加者18名) ・手作りオーディオで懐メロを楽しむ(延べ参加者15名) ・キッズ教室(陶芸、英語でクッキング、書初め、茶道)(4回、延べ参加者112名) 	<ul style="list-style-type: none"> 【取組への課題】 ・パソコン教室等の内容がマンネリ化し、参加者数が低調な講座も出ている。事業の数が多いため、ニーズにあった新しい事業と共に既存事業の見直し、魅力ある講座の企画と情報の積極的な発信を行う必要がある。 【課題を踏まえ今後の対応】 ・好評な講座等、魅力ある講座を開催し、受講者満足度の向上を図る。また、平成29年度の新規事業として、色鉛筆画教室や手話ダンス教室を開催する。 	H26 決算	173
			H27 決算	261
			H28 予算	335
			H28 決算	308
② 地域教育力向上事業	<ul style="list-style-type: none"> 青少年の健全育成のため、関係機関と連携を図り、以下の取り組みを推進した。 ○家庭教育アドバイザーによる合同家庭教育学級の開催支援(5回開催:延べ参加者238人) ○栄つ子夢・元氣プロジェクト「学校支援地域支援本部」(活動日数:安食小:264日・安食台小:264日・竜角寺台小:354日) ○こども110番活動の推進(登録世帯数:485戸) ○PTA活動の支援 ○子ども会育成連絡協議会活動の支援(4回開催:延べ参加者94人) ○青少年相談員活動の支援(7回開催:延べ参加者295人) ○地域ふれあい交流事業の推進(14回開催:延べ参加者730人) ○放課後ふれあい教室の運営(2校:延べ参加者447人) ○成人式の開催(新成人参加者135人) 	<ul style="list-style-type: none"> 【取組への課題】 ・子どもたちの社会性、自主性、協調性を育むため、社会教育関係団体や地域の様々な教育力を活用しなければ各種事業を実施できない。各種事業への参加者が安全で安心して過ごすためには、大勢のスタッフが必要となる。 ・こども110番登録者については、登録後の実態調査を実施したが、全ての現状が把握できていない。 ・子ども会育成連絡協議会が28年度で解散となったが、地域で子どもを育てる体制の強化が必要となっている。 【課題を踏まえ今後の対応】 ・今後も子どもが地域の中で安全に、安心して過ごすことのできる居場所づくりや、様々な体験活動、異世代交流の場づくりについては、ふれあい推進委員会をはじめ、青少年相談員などの青少年関係団体等と連携を図りながら事業を推進していく。 ・平成28年度から家庭教育アドバイザーを導入し、合同家庭教育学級による他校の先生や保護者との交流を実施し、今後も継続実施していく。 	H26 決算	1,414
			H27 決算	1,618
			H28 予算	2,615
			H28 決算	2,271
③ 体験活動推進事業	<ul style="list-style-type: none"> 自然体験や生活体験等のため、関係機関と連携を図り、以下の取り組みを推進した。 ○自然体験活動の推進「ドラマ自然楽校」(8回:延べ参加者394人)(雨天によりキャンプ中止) ○通学合宿の開催(参加者30人) 	<ul style="list-style-type: none"> 【取組への課題】 ・子どもの成長に合わせて様々な体験ができるよう、地域社会や保護者に積極的に働きかける必要がある。そのため、地域や行政、学校、関係団体等が子どもや保護者が参加できる体験活動の機会を充実させるとともに、社会教育関係団体や地域の支援者の方々の理解・協力・連携を得て体験活動を推進して行く必要がある。 【課題を踏まえ今後の対応】 ・社会教育関係団体や地域の支援者の方々の理解・協力を得て、引き続き、ドラマ自然楽校、通学合宿を実施していく。 	H26 決算	140
			H27 決算	116
			H28 予算	125
			H28 決算	115
合計			H26 決算	1,727
			H27 決算	1,995
			H28 予算	3,075
			H28 決算	2,694

施策評価シート

1. 施策の情報整理

施策名	生涯学習資料の充実					
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・町民一人ひとりが自分にあった主体的な学習活動を継続して行うためには、様々な知識や情報が適切に入手できるような環境整備が求められており、本町の学習拠点であるふれあいプラザ内図書室は重要な役割を担っている。 ・地域の課題解決や生活上の問題解決に必要な情報を町民ニーズを捉えながら提供していく必要がある。 ・学習活動が様々な場所・方法によって実施されていることから、多様な関係者・関係機関が連携しネットワークを効果的に構築するための仕組みづくりを行う必要がある。 					
目指す成果	図書資料や情報メディア等を活用して、町民は新しい知識・技術の習得や地域課題の解決などのため、主体的に学習を行っている。					
成果指標及び実績	指標	現状値	平成27年度	平成28年度	平成30年度 (教育振興基本計画目標値)	目標数値の説明
	図書室利用者数	16,096人 (H25)	16,336人	16,456人	16,696人	貸出者数(個人・団体) / 閲覧者数 / インターネット利用者数
施策全体の達成度 (★★★)	★★★	目標を達成(100%) ★★★ 目標をほぼ達成(80%以上) ★★ 目標を達成していない ★ 現時点では判定できない —	施策の事業費 (上段:最終予算) (下段:決算額)		4,044 千円 4,010 千円	
	達成度の理由	貸出冊数は利用者に比例し増加し、インターネット利用者数も年々増加し、図書室利用者数は、年度目標値をクリア出来ている。一方では、遠方地区の児童の脚の問題や、図書室のスペースの問題など、依然として課題はあるものの、インターネットを活用した検索・予約システムの導入なども早期に導入する検討も始めたことから、総合的には「達成」と判断した。				
設定成果指標以外に現れた成果の説明	<ul style="list-style-type: none"> ・学校で取り組んでいる「朝の読書タイム」の効果で小中学生の貸出しが伸びてきている。 ・竜角寺台小や布鎌小の児童は、ふれあい図書室を利用するには移動の問題があるため、学校への団体貸出しを推進していくことや、インターネット検索や予約が出来るようにする等の利用促進を検討していく必要がある。 ・中学生から大学生の利用が少ないことから、その世代の図書の充実が必要である。 ・本の読み聞かせや、子供映画会については、内容が固定化してきており、内容の見直しが必要となってきている。 					
外部環境の変化や住民ニーズの変化など、今後、課題と対応が予測されるもの	<ul style="list-style-type: none"> ・レファレンスサービス(調べ物の手伝い)の充実と利用の促進 「地域や住民にとって役立つ図書室」となり、地域の発展に欠かせない施設としての存在意義の確立を目指すために、レファレンスサービスの充実と利用の促進を図ることはもとより、地域の課題解決や生活上の問題解決に必要な資料・情報を積極的に提供し、地域や町民の課題解決を支援していく。 ・児童サービスの充実 子どもの読書活動や学習活動を支援する観点から、図書室ボランティアとの連携を深めていくとともに、地域格差のある学校図書館への支援を積極的に行っていく。 ・成果指標である図書室利用者数については、平成31年度からの第5次総合計画策定時に目標設定を上げ、利用者数を増やすために先進地を参考としながら、取り組んでいく。 					
住民との協働や他課の事業との連携	子どもたちが絵本・おはなし・映画に親しみ、心豊かな感性を育みながら読書に慣れ親しむよう、図書室ボランティア(おはなしの会・人形劇パレット)や映写ボランティアと連携し、おはなし会、人形劇や子ども映画会などの読書普及活動を展開した。					

2. 事務事業の取り組み

(単位:千円)

事務事業名	平成28年度の取組実績	事業の評価(取組の課題及び今後の課題への対応)	事業費	
① 図書室管理運営事業	生活関連本を中心に蔵書を充実させたほか、学校に調べ学習や朝読書用の本の貸出を行うとともに、学校図書館司書を対象としたスキルアップ研修会を開催し、子どもたちの読書活動の支援に努めた。 ○レファレンスを含む窓口サービス業務の充実(年間開室日数:286日) ○蔵書整備業務(購入636冊/寄贈560冊) ○学校貸し出し2,552冊	【取組への課題】 年代別の利用状況とみると、13歳から22歳の利用が圧倒的に少なく、これらの世代の読書活動を普及させる方策が必要となっている。	H26 決算	4,030
		【課題を踏まえ今後の対応】 千葉県公立学校教職員互助会より県内図書館等への学校図書支援用図書の寄贈事業の対象となっており、学校司書からの要望も聴きながら選定し、ヤングアダルトコーナーを中心とした蔵書の充実を図っていく。	H27 決算	3,621
			H28 予算	4,044
			H28 決算	4,010
② 読書教育事業	図書ボランティアによる本の読み聞かせ会、おはなし会、人形劇公演、子ども映画会を開催し、子どもたちが読書の楽しさに気づききっかけをつくり、読書体験を深めるようにした。(延べ参加者1,216人)また、学校図書館司書を対象としたスキルアップ研修会を3回開催し、学校における読書環境の整備を支援した。	【取組への課題】 読書教育関連事業が固定化してきており、新たな読書体験活動を深めていく必要がある。	H26 決算	0
		【課題を踏まえ今後の対応】 読書週間を活用して、学校等と連携した新しい図書の普及啓発活動に取り組み、各学校への貸出を推進していく。 平成29年度より、読書手帳を発行し、読書記録の管理と読書意欲の向上を図っていく。	H27 決算	0
			H28 予算	0
			H28 決算	0
合計			H26 決算	4,030
			H27 決算	3,621
			H28 予算	4,044
			H28 決算	4,010

施策評価シート

1. 施策の情報整理

施策名	スポーツ振興の充実						
現状と課題	スポーツイベントを中心に町民が気軽にスポーツを楽しめる機会を増やしていこうと試みている。少子高齢化の影響もあり、既存のスポーツ団体の活動が衰退傾向にあるので、スポーツ団体の活動の活性化が今後の大きな課題である。						
施策の情報整理	目指す成果	町民が身近なところで楽しみながらスポーツに慣れ親しんでいる。					
	成果指標及び実績	指標	現状値	平成27年度	平成28年度	平成30年度 (教育振興基本計画目標値)	目標数値の説明
		スポーツ大会・軽スポーツ教室参加者数	7,422人 (H25)	7,500人	7,550人	7,650人	
	施策全体の達成度 (★★★)	★★★	目標を達成(100%) ★★★ 目標をほぼ達成(80%以上) ★★ 目標を達成していない ★ 現時点では判定できない —			施策の事業費 (上段:最終予算) (下段:決算額)	
						19,782 千円	18,710 千円
	達成度の理由	・スポーツ大会・軽スポーツ教室参加者数については、目標値の109.3%であったことでスポーツ人口を増加させるという過年度からの課題はクリアできた。 ・さかえりバーサイドマラソンの参加人数が前年度比約30%の増加となったが、これは町の観光拠点でもある「千葉県立房総のむら」を通過するコースに変更したことでコースの魅力が増したことが大きな要因と考えられる。 ・新規事業の「スポーツによる地域活性化事業」により、スポーツ教室やイベントに参加した方が増加した。 ・以上の事から総合的に「目標を達成」できていると判断した。					
設定成果指標以外に現れた成果の説明	・体育施設利用者に関しては、H27年度は80,370人に対しH28年度は62,938人で減少している。主な減少要因としては、学校体育館の天井補強工事により使用日が制限されたため利用人数が減少したと考えられる。 【水緑:利用件数994件・13,222人/房総のむら:利用件数608件・12,103人/各体育館:利用件数2,146件・37,613人】 ・体育協会各専門部の人数が減少傾向にあり、新たな人材確保に努めなければならない。また専門部員の高齢化により脱退せざるを得ないことも人数減少の要因と考えられるため、各専門部の活動を積極的にPRすることで新たな部員の確保につなげ競技力の向上を図ることが必要と考える。						
外部環境の変化や住民ニーズの変化など、今後、課題と対応が予測されるもの	スポーツ無関心層の方や普段から体を動かす機会が少ない方などへ、運動やスポーツへの関心度を高め運動を習慣化させ健康増進や介護予防への意識改革を図る。特に40代～60代の働く世代をターゲットとした事業を展開し体調管理など健康増進につなげることが必要である						
住民との協働や他課の事業との連携	スポーツ推進委員・体育協会・住民活動団体・順天堂大学等の団体と連携し各種の教室やスポーツ大会を開催することは従前通り継続します。また、健康増進・維持の観点から地域医療機関とも連携し健康増進や介護予防のために必要な正しい知識の習得と、運動・スポーツの重要性に関する認識の向上に努める。 恒例となっている、さかえりバーサイドマラソンについては、各種スポーツ団体の他、教育委員会関連団体やボランティアを多く活用しランナーの安全確保に努めると同時に参加者及び来場者へのおもてなしの向上につなげる。また、著名なゲストランナーを招き参加者の増加を図る。						

2. 事務事業の取り組み

(単位:千円)

事務事業名	平成28年度の取組実績	事業の評価(取組の課題及び今後の課題への対応)	事業費	
① スポーツ・レクリエーション交流事業	<ul style="list-style-type: none"> 誰もがオリンピックを目指して～さかえスポーツフェスタ2016～【1,432千円】 ソフトボール教室(40名参加) サッカー教室(100名参加) 卓球教室(40名) バレーボール教室(40名参加) 親子体操教室(46名参加) ※延べ266名参加、講師・スタッフ延べ55名参加 ●スポーツ推進委員が行う事業への支援 報酬【600千円】、郡スポーツ推進委員連絡協議会負担金【34千円】 	【取組への課題】 補助金を活用したスポーツフェスタは引き続き実施することとするが、スポーツ推進委員活動については、事業のマンネリ化が見られるため参加者から飽きられないような工夫が必要である	H26 決算	4,270
		【課題を踏まえ今後の対応】 補助金を活用しトップアスリートを招いてのスポーツフェスタは引き続き開催する。このほか、他団体(青少年相談員や健康づくり推進員)と連携しスポーツ・運動を通じたスポーツコミュニティの醸成を図る	H27 決算	2,951
			H28 予算	1,914
② スポーツ競技力向上事業	<ul style="list-style-type: none"> 小学生大相撲トーナメントの実施(参加者42名)【5千円】 千葉ノ浦部屋相撲合宿時にふれあい相撲教室を実施(参加者25名) 町長杯ソフトバレーボール大会の実施(参加12チーム・70名) 町長杯サッカー大会の実施(参加28チーム・500名) 体育協会への活動支援【補助金1,731千円】 郡体育協会負担金【284千円】 郡市民体育大会出場選手協力依頼(選手出場262名) 郡市民体育大会ソフトボール競技開催【11千円】 	【取組への課題】 体育協会各専門部の人員が高齢化により衰退・減少方向にあることから、新たな人材を発掘しなければならない	H26 決算	1,972
			H27 決算	2,028
		【課題を踏まえ今後の対応】 体育協会各専門部の活動支援と活動のPRを積極的に行いました。スポーツを通じた地域連携を図りスポーツによる地域の活性化につなげる。	H28 予算	2,047
③ スポーツによる地域活性化推進事業【新規事業】	スポーツ健康増進大会【110千円】 講演会 浦井佐和子(順天堂大学准教授) 参加214名 スポーツチャレンジ【3,871千円】 ①スリングヨガ(2回)参加者60名 ②ヨガ教室(1回)参加者80名 ③シルディックウォーキング(3回)参加者125名 ④ユニセフ・ラブウォーク(1回)参加者92名 ⑤軽スポーツ教室(4回)参加者207名 ⑥体力調査大会(2回)参加者135名	【取組への課題】 スポーツ無関心層である40代～60代の働く世代の方々を、いかにして運動・スポーツに興味を持たせ、健康増進の意識付けを向上させるかが課題である	H26 決算	—
			H27 決算	—
		【課題を踏まえた今後の対応】 スポーツ・運動に限らず、健康増進や介護予防のために教室等の参加者へのインセンティブを付与することで関心度を高め、運動の習慣化を図る	H28 予算	4,280
④ 生涯スポーツ環境整備事業	<ul style="list-style-type: none"> 町民プール 館開放委託【3,197千円】 ふれあい公園相撲場整備工事【195千円】 体育施設管理【7,736千円】 	【取組への課題】 幅広い世代の方々が快適に利用できるよう各体育施設の定期的な巡回を実施するよう努める。	H26 決算	7,761
			H27 決算	7,937
		【課題を踏まえ今後の対応】 体育施設の適正な管理のため、点検・整備を定期的に行う。また、補助金を活用するなど必要な修繕を施す。	H28 予算	11,541
合計			H26 決算	14,003
			H27 決算	12,916
			H28 予算	19,782
			H28 決算	18,710

学識経験者の意見（基本方針（2）について）

【施策名：生涯学習環境の充実】

- ・生涯学習活動支援事業で、小学生を対象に、実際栄町の企業に協力していただき、キッズ教室に職業体験のようなものを考えてはどうか。
- ・スペースがあれば、1カ所にいろいろな種類の職業を体験できるようなところがあればいい。わざわざ事業所にいくとなると構えてしまうし、受け入れるほうも仕事の時間もあるでしょうし、せっかくキッズ教室で陶芸や英語でクッキングなどやっているのので、事業所に行くのではなく、いくつか企業を集めて小学生が教室ごとに親と一緒に回るといような方策もあると思う。
- ・家庭教育学級は、合同でやるということはすごく良い事だと思いますので、保護者は授業参観などは行っていますが、給食もそうですが、現在問題になっているいじめや虐待のことなど、そういったものも家庭教育学級の中で勉強できるものですから、是非、合同でも進めていただいて、保護者の子育てに関する知識・理解を深めていただきたい。
- ・すごくいいと思ったのは、住民との協働ということで、ふれあい盆踊り大会を北辺田小でやっていたと思いますが、北辺田小が安食台小に統合になっても、北辺田地区ではこういう風にやっているということで、地域で子どもたちを育てるということで、すごく良い事だと思いますので、続けてもらいたいと思います。布鎌も昔は、盆踊りなどを青年団中心にやっていましたが、人が少なくなってできなくなってきています。ですからこういったものを大事にという事と、放課後ふれあい教室、ドラム自然楽校にたくさん子どもたちが参加してもらえれば、うれしい事だと思います。通学合宿もすごくいいと思っていますので、是非この事業は進めていただければと思います。
- ・こども110番ですが、見直しは終わったのですか。

【施策名：生涯学習資料の充実】

- ・電子書籍はうまくいくといいと思います。財源になってくると思います。

【施策名：スポーツ振興事業の充実】

- ・スポーツによる地域活性化推進事業で、アイデアを活かしてやっているところがすごいと思います。順天堂大学も近くにありますが、そちらと提携してやっているということはすごくいい事なので、是非続けてもらいたいと思いますが、体育協会、各専門部の人員が高齢化ということで、下の世代を発掘していかなければならないと思います。そこは尽力して下さい。
- ・オリンピック・パラリンピックも控えていることですし、地域活性化にスポーツを取り入れるには、いい新規事業だと思います。スポーツチャレンジデーの中に、障害者の方が参加するような種目を取り入れていくといいと思います。近くにゴルフ場があるので、広い芝生もあるし、提携して何かスポーツチャレンジデーに種目が増えればいいと思いますし、障害者も入れていくといいと思います。

学識経験者からの意見を受けて今後の取組みについて

生涯学習課より

【施策名：生涯学習環境の充実】

- ・ 職業体験は、小学校6年生では「夢仕事ぴったり体験」という事業名で町内を中心とした事業所の中に、児童を派遣して見学しています。中学2年生で同じように実際に派遣して、仕事を一緒に2日か3日程度体験して、キャリア教育の一環として将来どのような職業を選択するか、資質能力を育成するような取組みをしています。小学生ですが、ただ見させていると子どもたちの方がもたないので、実態としては実際体験させていただいているようです。
- ・ ご提案の、1箇所にキッズプラザのような職業体験イベントについては、スペース的な面では、十分対応出来得ますが、物販・サービス業などは可能と思われる反面、製造業などについては、ふれプラ内に仮設で設備等を設置することは、難しいと考えています。
- ・ こども110番ですが、見直しはやっている最中で、子どもの流れなど変わったりするので、随時変えています。高齢な方も多くなってきていて、できないとかいないとかいう方もいますので、それは随時変えていくしかないと思っています。

【施策名：生涯学習資料の充実】

- ・ 電子書籍に関しては説明のとおり、まだ情報収集の段階で、今後の財源確保も含めて検討していく考えです。
- ・ 図書貸出しシステムは、県内でもほとんどネット検索や予約などができていますので、こちらは町としてもやっていかなければいけないと考えており、できれば来年度導入したいと考えています。そうすれば遠方の方もどんな本があるか見れて、予約もできますので、例えば学校でそういったことをやらしてもらえれば、取りに来てもらったり届けたりできますので、遠方の問題も含めて解決になると思っています。

【施策名：スポーツ振興事業の充実】

- ・ 運動している方というのは、幅広く年齢層がいるのですが、例えば協会の役員をやった方だと、若い方が提案していただけないのが実情です。その中でも、スポーツ推進委員が積極的に出ていますし、人繋がりでも人的強化もしていかなければいけないと思っています。
- ・ 障害者につきましては、障害者福祉も事業をやっていますので、連携しながら考えていきたいと思っています。

基本方針（3）

地域に根ざした芸術・文化の育成と文化財の保護・伝承・活用を図り、個性豊かで潤いのある地域文化の醸成を図ります。

【施策名】

- ・文化芸術発信拠点の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 2 8
- ・歴史資料の公開・活用・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 2 9
- ・文化財保護の拡充・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 3 0

○学識経験者の意見・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 3 1

○学識経験者からの意見を受けて今後の取組みについて・・・・ P 3 2



施策評価シート

1. 施策の情報整理

施策名		文化芸術発信拠点の充実					
現状と課題		<ul style="list-style-type: none"> ふれあいプラザさかえの経年経過による施設の不具合が多く発生しており、その解消が望まれている。 各サークル等、文化芸術団体の会員の高齢化や会員の減少により、活動の減少が発生しており、活動支援や新規団体の育成が必要である。 社会環境の変化により、余暇時間を利用した個人の趣味や学習活動が増加し、ふれあいプラザさかえに来れば、いつでも文化芸術の情報が入手でき、また多くの文化芸術に触れられる機会が望まれている。 					
施策の情報整理	目指す成果	文化芸術に触れたり、学習意欲を刺激しあう機会の提供により、町民個々がスキルアップし、心豊かにいきいきと生活している。					
	成果指標及び実績	指標	現状値	平成27年度	平成28年度	平成30年度 (教育振興基本計画目標値)	目標数値の説明
		ふれあいプラザさかえの利用人数	199,632人 (H25)	207,600人	211,700人	220,200人	ふれあいプラザさかえの年間利用人数
	施策全体の達成度 (★★★★)	★★★★	目標を達成(100%) ★★★★★ 目標をほぼ達成(80%以上) ★★★★★ 目標を達成していない ★ 現時点では判定できない —	施策の事業費 (上段:最終予算) (下段:決算額)		61,190 千円	56,715 千円
	達成度の理由	H28年度のふれあいプラザさかえの利用人数については、目標値に達した。また、施設の利用率も上がっており、応急的ではあるが、利用に支障が出ない程度の修繕改修等も実施していることから、総合的に「達成」と判断した。					
	設定成果指標以外に現れた成果の説明	<ul style="list-style-type: none"> ふれあいセンターの貸し部屋は利用率が前年度の71.5%から75.9%と4.4%上昇した。 施設の老朽化に伴い、修繕箇所が増えてきているが、要修繕箇所が多く、応急的に使用できるようにしている部分が多い。 平成29年度に施設の個別施設計画(長寿命化の実施計画)を策定し、計画的に施設改修を実施していく。 サークル団体は増加しているが、高齢化が進み、活動は鈍化傾向。新たな人材確保が必要。 					
	外部環境の変化や住民ニーズの変化など、今後、課題と対応が予測されるもの	<ul style="list-style-type: none"> 施設整備については、平成29年度に策定するふれあいプラザさかえ施設の個別施設計画(長寿命化の実施計画)で方向付けを行い、文化ホールの適正な規模での建替え修繕も検討していく必要がある。 各サークル等、文化芸術団体の会員の高齢化や個人の趣味や学習活動が多岐にわたり、団体会員の確保や活動の維持、及び文化ホールでの文化芸術事業の選択が課題となる。 					
住民との協働や他課の事業との連携	ふれあいプラザさかえ施設管理において、住民団体やふれあいプラザさかえ利用サークルが敷地内の花壇整備や除草・剪定を実施した。						

2. 事務事業の取り組み

(単位:千円)

事務事業名	平成28年度の取組実績	事業の評価(取組の課題及び今後の課題への対応)	事業費
① ふれあいプラザさかえ施設管理・運営事業	<ul style="list-style-type: none"> ふれあいプラザさかえを年間291日開館し、管理・運営を実施した。 施設総合管理や設備保守点検、特殊建築物定期報告調査等を委託 光熱水費(電気・ガス・上下水道)の支払い 窓口業務の日々雇用職員との連携、調整 平成28年4月1日～平成31年3月31日の3年間、文化ホール業務委託(舞台・音響・照明のスポット委託) 	【取組への課題】 ・限られた予算内で施設管理が出来るように努めて行きたいが、経年経過による消耗のために突発的な消耗品が発生したりしている。年度途中で電気事業者を変更し、利用料が安くなったが、それでも光熱水費が不足し、補正予算で対応している。	H26 決算 54,101
		H27 決算 50,702	
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・施設利用者にとって、安全で安心な施設の維持・管理及び施設運営を努めて行く。 ・支出の半数を占める光熱水費については、節電や節水を利用者へ呼びかけようとし、支出を軽減して行く。	H28 予算 59,201
		H28 決算 54,738	
② ふれあいプラザ施設改修事業	<ul style="list-style-type: none"> 次のとおり施設や設備の修繕を実施した。 悠遊亭空調設備(冷温水配管枝管)の修繕 文化ホール音響パワーアンプ、雨水排水管、風除室照明の修繕 ふれあいセンター照明安定器、照明スイッチ、冷温水発生機の修繕 消防設備(ガス漏れ感知器等)の修繕 光ファイバー導入配管の修繕 事務室空調機新設工事 電気陶芸窯(中古)の移設工事 	【取組への課題】 ・経年経過による設備の故障が多く発生しており、応急的な対応に留まり、施設の不具合の全ての修繕が出来なかった。	H26 決算 19,660
		H27 決算 2,201	
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・より利便性の向上と安全性の確保に努め、施設・設備の不具合の解消を図る。 ・平成29年度に計画的な修繕計画を策定し、改修を実施して行く。	H28 予算 1,980
		H28 決算 1,968	
③ 文化芸術振興事業	<ul style="list-style-type: none"> 貸館事業による文化事業を展開。 高校・大学の協力を得てのコンサートの開催、文化ホールピアノの一般開放、映画「シェーン」を上映した。 ハンドベルコンサート(2回、延べ参加者261名) ジャズコンサート(延べ参加者550) ホールピアノ一般開放(8日、延べ参加者54組) 映画会(2回、延べ参加者115名) 地元芸術家写真展(6日、延べ入場者427名) 	【取組への課題】 ・町民がどのような文化芸術に興味があるのか、把握出来なかった。	H26 決算 0
		H27 決算 0	
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・高校・大学、関係団体等の協力を得てのコンサートや映画会を開催していく。 ・文化芸術振興事業として、ふれあいプラザさかえ事業基金を活用し、企画・実施していく。	H28 予算 0
		H28 決算 0	
④ 文化芸術団体支援事業	<ul style="list-style-type: none"> サークル団体等の日頃の活動成果、発表する機会として栄町ふれあい文化祭を実施。 ふれあいセンター1階展示ロビーにおいて展示ケースやミニギャラリーによるサークルの案内、作品展示を随時展開している。 	【取組への課題】 ・文化祭への参加団体は、5小学校の招待を含め54団体だった。一般団体が前年より1団体減った。入場者数は3,701名。 ・一部の団体では、会員の高齢化や会員の確保に苦慮している。利用サークル連絡会は年度末で1団体増加し56団体。	H26 決算 9
		H27 決算 9	
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・栄町ふれあい文化祭やサークル紹介スペース、広報紙等を活用し、活動成果の発表や団体の活動内容を町民に紹介して行く。	H28 予算 9
		H28 決算 9	
合計			H26 予算 73,770
			H27 決算 52,912
			H28 予算 61,190
			H28 決算 56,715
			H28 決算 56,715

施策評価シート

1. 施策の情報整理

施策名		歴史資料の公開・活用					
現状と課題		町史編さんについては刊行事業が凍結されており、緊急的課題に係る調査を若干進めている状況である。このため当面は、これまでの調査成果を簡便平易な方法で公表して普及を図る。また、「公文書等の管理に関する法律」施行に係る歴史公文書等の収集・整理・公開体制の整備について進捗させることで、町民等による地域史料の閲覧・利用について利便性を高める。					
施策の情報整理	目指す成果	本町の歴史、文化遺産等を史実に基づき、調査、収集及び記録し、公開することにより、町民の愛郷心を高揚させ、永く後世に伝えられている。					
	成果指標及び実績	指標	現状値	平成27年度	平成28年度	平成30年度 (教育振興基本計画目標値)	目標数値の説明
		歴史公文書の整理保存作業	8% (H25)	15%	20%	30%	
	施策全体の達成度 (★★★★)	★★	目標を達成(100%) 目標をほぼ達成(80%以上) 目標を達成していない 現時点では判定できない	★★★★ ★★★ ★★ —	施策の事業費 (上段:最終予算) (下段:決算額)		201 千円
	達成度の理由	歴史公文書の整理保存について、資料全体から見た整理保存作業の進捗状況はスツーカー箱554箱中、111箱分の作業が完了し目標値の20%に達していることから、数値上は目標は達成しているが、下記のような課題があり、総合的には「ほぼ達成」とした。					
	設定成果指標以外に現れた成果の説明	<ul style="list-style-type: none"> ・栄町史刊行に係る調査データを活用して、町史編さん委員会の協力により広報誌に記事を毎月掲載することができ、栄町の歴史・文化遺産について紹介できた。 ・依然、多くの史料が整理されていない状況で、財政的な問題で、町史として刊行出来ないにしても、早期に史料を公開できる状態に進めていく必要がある。 ・史料整理に関わるスタッフ等の人材確保と計画的な整理保存作業が必要である。 					
外部環境の変化や住民ニーズの変化など、今後、課題と対応が予測されるもの	刊行計画の凍結状況の長期化に伴い、栄町史編さん委員会及び専門委員の高齢化等に係る退任が進んでいることから、今までの成果の還元である『栄町史』の刊行について進捗させる必要がある。「公文書等の管理に関する法律」施行に係る歴史公文書等の収集・整理・公開体制の整備について進捗させることで、町民等による地域史料の閲覧・利用について利便性を高める。						
住民との協働や他課の事業との連携	栄町古文書学習会の会員に『栄町史史料編』(近世)への掲載予定史料に係る解説筆耕作業を継続的にお願いしている。このことは、会員の生涯学習活動を通して町民に情報が発信され、郷土の歴史の普及となっている。また、栄町文化財サポーター登録者に新たに発見された地域史料(襖などの下張文書)の整理保存作業を継続的に実施していただいている。						

2. 事務事業の取り組み

(単位:千円)

事務事業名	平成28年度の取組実績	事業の評価(取組の課題及び今後の課題への対応)	事業費	
① 町史編さん事業	これまでの調査成果を町史編さん委員会の協力を得て毎月広報誌を通して公表した。また、まちづくり大学において「龍のまち さかえ」を知るをテーマに開催し好評を得た。	【取組への課題】 広報誌への掲載について、スペースが限られていることから原稿量の調整が難しい。	H26 決算	103
		【課題を踏まえ今後の対応】 時宜を得たテーマや歴史講座の参加者、文化財サポーター登録者などから興味のあるテーマを聞き取り、記事に反映させる。	H27 決算	102
			H28 予算	178
② 記録史料の保存・公開事業	地域史料(古文書等)の整理保存作業を文化財サポーターとの協働で実施した。 歴史公文書の整理保存作業は議会関係(布織村役場分)について着手することができた。	【取組への課題】 地域史料の整理保存は、協働作業で着実に進捗しているが、歴史公文書の整理保存作業は、作業員、時間の確保に苦慮している。	H26 決算	32
		【課題を踏まえ今後の対応】 歴史公文書の整理保存作業日を固定化して作業員・作業時間を確保し、公文書管理法に基づく例規等の整備を進め、歴史公文書のライフサイクルを確立させる。また、保管場所の集約を進めたい。	H27 決算	30
			H28 予算	23
合計			H28 決算	21
			H26 決算	135
			H27 決算	132
			H28 予算	201
			H28 決算	123

施策評価シート

1. 施策の情報整理

施策名		文化財保護の拡充					
現状と課題		<ul style="list-style-type: none"> ・岩屋古墳周辺の指定地に係る公有化は膠着化して動きがない。しかしながら国指定史跡候補地内における未指定地の追加指定を進捗させて早期に保全、保護について確立させる必要がある。また、岩屋古墳の基礎的調査の終了に伴う報告書の作成を進め、史跡整備計画に反映させる必要がある。 ・町内外へ国史跡などの文化財の活用、普及や環境整備を図るためには栄町文化財サポーターとの協働が不可欠なことから登録者を増加させる必要がある。 					
施策の情報整理	目指す成果	文化財が持っている重要性への理解が深まり、文化財の保護への意識が高まっている。 また、国史跡龍角寺古墳群・岩屋古墳の公有化が図られ、その保全・活用のための整備計画策定に必要な岩屋古墳の修復や主要な古墳等の調査が実施され、その成果が活用されている。					
	成果指標及び実績	指標	現状値	平成27年度	平成28年度	平成30年度 (教育振興基本計画目標値)	目標数値の説明
		発掘調査の成果や普及活動等を行う栄町文化財サポーター数	26人 (H26)	31人	36人	46人	登録人数
	施策全体の達成度 (★★★)	★★	目標を達成(100%) ★★★ 目標をほぼ達成(80%以上) ★★ 目標を達成していない ★ 現時点では判定できない —	施策の事業費 (上段:最終予算) (下段:決算額)		3,192 千円	2,784 千円
		達成度の理由	文化財サポーター登録者を中心とした養成講座(まちづくり大学4/8回)を開催して研修を実施し関心を深め、新規登録者7名を獲得したことから、数値目標は達成したが、文化財の活用の面では、財政的な問題から、保存活用計画策定が依然見通しが立たない状況下にあることから、総合的には「ほぼ達成」と判断した。				
	設定成果指標以外に現れた成果の説明	<ul style="list-style-type: none"> ・岩屋古墳発掘調査報告書について龍角寺古墳群調査整備委員会の指導を得て刊行することができた。 ・サポーターとの協働による、史跡周辺の環境整備について定期的(月例)作業、及び主要イベントに係る文化財ガイドの確立が図れた。 					
	外部環境の変化や住民ニーズの変化など、今後、課題と対応が予測されるもの	<ul style="list-style-type: none"> ・財政的な問題で、史跡の「整備活用計画」が当面作成できないため、戦略的な活用が出来ない。 ・岩屋古墳の発掘調査データから方墳として現在規模の確定している遺跡として日本一となったこと、小学校教科書に掲載されたことなどから見学者が増加している。このことから表示板やガイドなどの対応が必要となっている。 ・岩屋古墳エリアの公有化の進捗に伴い、史跡用地の環境整備(除草作業)が課題となっている。 					
住民との協働や他課の事業との連携	文化財サポーター制度を拡充させて、教育委員会等が行う文化財に関するイベント等や観光客等の来町者、見学者の案内・説明、さらに史跡等を保全するための環境整備・清掃作業などの協働を進捗させる。						

2. 事務事業の取り組み

(単位:千円)

事務事業名	平成28年度の取組実績	事業の評価(取組の課題及び今後の課題への対応)	事業費
① 文化財の調査・保護事業	開発に伴う記録保存は、その都度の事業者等と連絡、協議、調整を行い確実に処理した。岩屋古墳の基礎的発掘調査の終了に伴う報告書を刊行した。また、発掘調査の成果や普及活動等を行う栄町文化財サポーター登録者の活動支援のため養成講座(まちづくり大学:4回のべ49名参加)などを開催した。	【取組への課題】 岩屋古墳の基礎的発掘調査に係る発掘調査報告書を刊行したことから、成果を踏まえた普及版(パンフレット)などの作成が必要となっている。また、龍角寺境内及び瓦窯趾出土の遺物(早稲田大学学術調査)の再整理に着手したことから龍角寺の再評価を図る必要がある。	H26 決算 5,428
		【課題を踏まえ今後の対応】 岩屋古墳の普及版(パンフレット)作成については、龍角寺古墳群調査整備委員会の指導及び公益法人印旛郡市文化財センターの協力を得て進捗させる。また、龍角寺発掘調査成果の再評価について早稲田大学を支援協力していきたい。	H27 決算 5,152
			H28 予算 2,868
			H28 決算 2,668
② 龍角寺古墳群保全・活用事業	NPO法人栄町観光協会、千葉県立房総のむらなどに協力し龍角寺・岩屋古墳を訪ねるハイキングや古墳めぐりに、さらに小学校社会科授業の現地見学などに対応し、国史跡岩屋古墳や龍角寺の普及を図った。(文化財ガイド41名、来訪者1,214名)また、岩屋古墳及び浅間山古墳について栄町文化財サポーターとの協働により定期的な環境整備作業を行い保全に努めた。(のべ87名)	【取組への課題】 文化財ガイドの対応について柔軟に対応できる体制とメニューづくりの必要性が生じている。また、浅間山古墳エリア全体の環境整備作業を実施することが課題となっている。	H26 決算 89
		【課題を踏まえ今後の対応】 房総のむら、栄町観光協会との連携を進めることで文化財ガイドの円滑化を図りたい。浅間山古墳の重要性を普及させることで、地元自治会や栄町文化財サポーターなどの理解を得て環境整備作業の充実を図りたい。	H27 決算 80
			H28 予算 324
			H28 決算 116
合計			H26 決算 5,517
			H27 決算 5,232
			H28 予算 3,192
			H28 決算 2,784

学識経験者の意見（基本方針（3）について）

【施策名：文化芸術発信拠点の充実】

- ・栄町の特徴になると思いますので、ふれあいプラザさかえを文化芸術発信拠点となるように、何とか活かしていきたいですね。施設の老朽化もあるし、色々な財政の部分もあると思いますが、基本的にはふれあいプラザさかえを残していくということを前提にどうしていくかという様に考えていかなければいけない。房総のむらもありますので、うまくリンクして夕方のコンサートをやるなど、場所をうまく活用して、サークルやプロの方のコンサートや劇など、舞台というより、その場所を使って文化芸術の色々な発表を行うということは、文字通り特色ある栄町として、PRになると思っていますので、引き続き期待しています。文科省などから予算は持ってこられないのですか。
- ・文化ホールで、文化芸術事業で有名なアーティストが昔は来たりしていましたが、今はそういうのは厳しいですか。
- ・文化ホールでの子どもたちの音楽発表会などは、保護者も来るとしますので引き続きお願いしたいと思います。

【施策名：歴史資料の公開・活用】

- ・町史を刊行するという事は、本当に大変なことで、財源がなければできないし、町史編さんの委員も、高齢化なので次の世代を見つけなければならないということも、すごい事だと思いますが、大切な事なのでがんばっていただきたいと思います。

【施策名：文化財保護の拡充】

- ・史跡の環境整備というのはすごく大変だと思いますが、ボランティアなどはいないのですか。
- ・古墳と房総のむらは一つの観光資源と考えると、非常に貴重ないいものなので、何かもう一歩工夫できないものか。例えば、ライトアップしたり、パンフレットも英語や中国語など外国人向けにするなどにより、日本の古い文化財を観光資源に結び付けて活用を図っていくと良い。なんとか少しでも財源になって、管理運営経費に充てるなど、工夫ができないものかと思っています。観光のアイテムとして位置付けていくといいと思います。もったいないと思います。金食い虫という発想では、何も浮かばないと思うので。
- ・管理上はお荷物になってしまいますね。外国人が来る絶好の機会なのにもったいない。古墳だけでなく、他の所と結び付けて観光ルートができるとと思いますが。何とかひと工夫できないかと思っています。

学識経験者からの意見を受けて今後の取組みについて

生涯学習課より

【施策名：文化芸術発信拠点の充実】

- ・前は、社会教育施設も改修の補助金があったのですが、今はほとんどありません。今、国でこういった改修が必要な自治体が多くなってきていますので、改修の事業債があり、改修計画を作って認定されれば、起債を借りられて、何割か交付税措置で戻ってくるような制度ができましたので、それを活用して今回からやろうかと思っています。
- ・28年度はなかったのですが、今回は米村でんじろうさんのサイエンスショーを基金を使ってやることになりました。集客を見込めるものであれば、どんどんやっていきたいと思っています。

【施策名：歴史資料の公開・活用】

- ・限られた予算の中ではありますが、町史に関するボランティアの方などと協働で、粛々と進めて行きます。

【施策名：文化財保護の拡充】

- ・史跡の環境整備ですが、年に2回位はシルバー人材センターに委託してやっていますが、それだけでは見られた状態ではないので、古墳周りや散策路はボランティアの文化財サポーターと一緒に随時やっています。夏場は毎月やっています。
- ・何かやるには、必ず届けたり承認をいただかないと手をつけられないので。
- ・国県の考え方が、観光ではなく学習の施設だという考えがあるので、ドラムの里が今回、ゆめ牧場が経営してくれていますが、夜間営業しようかどうかというのがあって、夜間に営業して、県の駐車場を利用しようかどうかというのがありますが、県はなかなか踏ん切りをつけない、いつでも明るくして来れるようにすれば、外国人の方も食事したり、色々工夫できるのですが、そこに一つハードルがあって、なかなかハードルを乗り越えない。県は学習施設、学習環境だという思いがあるので、特区というふうに変えるには、観光としての立地状況から出していけないと、厳しいと思います。基本的に、そのままの状態、後世に伝えるというのが基本らしく、いじって付加価値をつけるということは、なかなか難しいです。
- ・外国語のパンフレットの作成に関しては、29年度に岩屋古墳の発掘調査が終わったことから、日本語のパンフレットは作成する予定ですが、外国語の物を作成するまでは、予算確保が出来ていないため、今後作成できるよう、検討していきたいと考えています。

5 【本町教育行政が取組む方向について】

教育長より

栄町教育委員会では、「栄町教育振興基本計画」を平成27年度から平成30年度までの4ヶ年の期間で策定しました。

この計画は、子どもたちだけでなく、家庭・学校・地域が連携し、それぞれの役割を果し合いながら、学校教育、生涯教育、スポーツ、文化芸術などの各分野に積極的に参画することで「豊かな心と生きがいを育み、歴史と文化が息づく町づくり」をつくり、「夢に向かって挑戦する栄っこ」を育むことができる社会の実現を目指しています。

そこで栄町の教育を具現化するために、3つの基本方針を掲げ、12の施策を展開いたしました。そして、この施策の事務の管理及び執行の状況について、教育委員会（事務局）として、施策ごとの取り組みとその成果・課題について自己点検・総合評価し、報告書としてまとめさせて頂きました。

そして、「点検・評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験者を有する者の知見の活用を図るものとする」と法律で規定されていることから、当町におきましても学識経験者の方に厳しい財政事情のなかでの事業展開についての取り組む姿勢や手法、そしてその成果や課題等について細かく的確なご指導・ご指摘・ご意見を頂きました。

ご指摘・ご指導を受けた事項につきましては真摯に受け止め、更なる充実・発展のため努力していかねばならないと考えております。

「教育」が人々の多様な個性・能力を開花させ、人生を豊かにするとともに、社会全体が今後一層発展する基盤であるとの考えのもと、今後も更に進む少子化・高齢化を踏まえ、これからの栄町を担う子どもたちの健やかな成長を、家庭・学校・地域が連携して支えていくとともに、町民一人ひとりが生涯にわたって学び続け、必要とする様々な力を養い、その力をふるさと「栄町」のために活かせる豊かな教育施策の実現と志の高い教育行政の推進に努めてまいります。

